

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における 香美町の調査結果のまとめ(概要)

1 調査の概要 <P1>

2 本町の状況

(1) 教科に関する調査の状況

- ア 小学校に関する状況 <P1>
- イ 中学校に関する状況 <P1>
- ウ 教科ごとの調査の状況 <P2>

(2) 教科ごとの状況及び課題が見られた「問い」

- ・小学校国語 <P3~p6>
- ・小学校算数 <P7~P11>
- ・中学校国語 <P12>
- ・中学校数学 <P13~P15>
- ・中学校英語 <P16~P19>

(3) 児童生徒質問紙・学校質問紙に関する調査の状況

- ア 学校運営に関する状況について <P20>
- イ 中学校英語に関する状況について <P21~P23>
- ウ 自己変容の状況について(小6の時と中3時の3年間の経過から) <P24~P25>
- エ これまでの回答状況の変化から <P26~P29>

(4) 質問紙と学力のクロス分析の状況から

- ア 主体的、対話的で深い学びの視点に立った取組と正答率の状況 <P30>
- イ 読書時間と正答率の状況 <P31>
- ウ 自己有用感と正答率の状況 <P32>
- エ ふるさと意識と正答率の状況 <P33>
- オ 「新聞を読むこと」と正答率の状況 <P34>
- カ ほめる指導と正答率の状況 <P35>
- キ 家庭学習と正答率の状況 <P36>

3 今後の取組の方向性について <P37~P38>

令和元年12月

香美町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、本町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

(2) 実施期日 平成31年4月18日(木)

(3) 調査実施校数及び人数

- ・小学校6年生：10校 128人
- ・中学校3年生：4校 150人

(4) 調査内容

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語(中学校)〕

今年度から、これまでの主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題が一体的に出題されることとなった。また、英語(中学校)が初めて実施された。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- (ア) 児童生徒に対する調査
- (イ) 学校に対する調査



2 本町の状況

(1) 教科に関する調査の状況

【調査結果の分析の基準】

全国(公立)平均正答率を基準とした時の割合	全国(公立)や兵庫県(公立)と比較した時の表現
+5%以上	上回る
±5%内	同程度
-5%以下	下回る

ア 小学校に関する状況

教科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国語	同程度	同程度
算数	下回る	下回る

イ 中学校に関する状況

教科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国語	同程度	同程度
数学	同程度	同程度
英語	上回る	同程度

※全国(公立)、兵庫県(公立)とは、参加した国公立学校のうち、公立学校を対象としていることを示す。(以下、全国、兵庫県と言う。)

ウ 教科ごとの調査の状況

【調査結果の概略】

◆小学校◆

(国語)

- ◎必要な情報を得るために、本や文章全体を概観して効果的に読むことはできている。
- 各問いの正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 無解答率が10%を超えている「問い」の割合は、全国、兵庫県、香美町とも同じ傾向にある。
- ★学習指導要領の領域別では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に課題がある。

(算数)

- 各問いの正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 香美町では無解答率が10%を超えている「問い」はないものの、全国、兵庫県では、全問いの約7%みられる。
- ★学習指導要領の領域別では、「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」に課題がある。

◆中学校◆

(国語)

- ◎学習指導要領の領域別では、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「問い」で全国を上回るものがある。
- 各問いの正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 全国、兵庫県、香美町とも無解答率が10%を超えている「問い」はみられない。

(数学)

- 各問いの正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 全国、兵庫県、香美町とも無解答率が10%を超えている「問い」の傾向は同じである。
- ★学習指導要領の領域別では、「関数」、「資料の活用」に課題がある。

(英語)

- ◎「書くこと」の領域では、問われていることが分かれば、自分の考えなどをなんとか伝えようとする粘り強さや意欲がみられる。
- 各問いの正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 無解答率が10%を超えている問いが、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の「問い」の一部にみられ、その傾向は全国、兵庫県と同様である。

(2) 教科ごとの状況及び課題が見られた「問い」

正答率が30%以下の「問い」及び全国との正答率の差が5%を越えて低い「問い」について分析を試みた。

小学校 国語

【良好と考えられる項目】

◎目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。(大問2)

【特に課題と考えられる項目】

★目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと。(大問1の三)

	正答率が30%以下	全国との正答率の差が5%以上	領域
1-一		○	書くこと
1-三	○	○	書くこと
1-四-(1)-ア		○	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
3-一		○	話すこと・聞くこと
3-二		○	話すこと・聞くこと
3-三		○	話すこと・聞くこと
3-四		○	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

1

高橋さんの手紙では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することにしました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いてある「報告する文章」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



公衆電話について

はじめに

先日外出したときに、家に電話をかけようと思っただけで近くの店に行くこと、あつたはずの公衆電話がなくなっていて、こまづいてしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間にかなくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと、町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめたものが(資料1)です。平成二十年度から二十九年度までの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうのかどうか調べてみることにしました。

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか
 多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。

そこで、地いきの人三十人を調査のアルバイトとして、公衆電話が必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが(資料2)です。「けいたい電話をわすれたときに必要」「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。

このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

(2) 公衆電話にはどのような使い方をすることがあるのか
 公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方がありました。

- ・ 警察署(110番)や消防署(119番)には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができます。
- ・ 待電のときでも、硬貨を使って通話することができます。
- ・ 電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。

このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか
 公衆電話が必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが(資料3)です。

この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかと、今度の調査を通じて知ったことを、学校の友達にいかせられたいと思います。

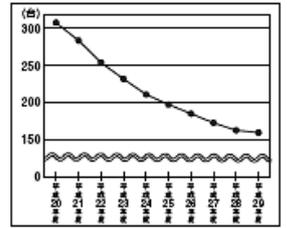
(資料3) 公衆電話の設置場所を示した地図



(資料2) 公衆電話が必要理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながらにくいときに必要	3人
その他	5人

(資料1) 公衆電話設置台数の移り変わり



解答の状況

③- 一について

- ・誤答で最も多いものは、「1 十八歳から五十年間も、畳職人という仕事を続けることができたということでしょうか。」である。(12.5%)

③- 二について

- ・誤答で最も多いものは、「2 相手に質問する理由を理解してもらえるように、インタビューの目的を伝えてから質問している。」である。(14.8%)

③- 三について

- ・正答の条件として、次の3つを満たす必要がある。「①大谷さんの仕事への思いや考えについて、【インタビューの様子】の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書いていること。②インタビューとしてふさわしい言葉遣いで書いていること。③指定された字数で書いていること。」
- ・誤答の多くは、制限字数では書けているものの、①または②のいずれかを満たしていない場合である。

③- 四について

- ・誤答で最も多いものは、「4 一生けん命がんばったから、あれこれ考えず気長に結果を待とうよ。習うより慣れろだよ。」である。(10.2%)

改善に向けて考えられる方策等

- 自分が選んだ人物についてインタビューし、紹介し合う学習活動では、「目的に応じて質問を工夫したり、話し手の意図を捉えながら聞いたりして、自分の考えをまとめることが大切である。

そのため、次のようなことに留意しながら学習活動に取り組むことが考えられる。

- ・身近な人物で、児童がインタビューして紹介したいという思いを大切にす。その際、指導者は、必要に応じてその人物の情報を児童に提供するなど、インタビューへのモチベーションを高める支援をする。
- ・インタビューの目的を明確にし、聞き出したい内容を整理する。
- ・整理した内容をもとに、児童同士お互いに質問の仕方について話し合いをする。
- ・インタビューで得た情報を整理し、自分の考えなどをまとめる。
- ・インタビューのまとめをお互いに紹介し合うなど、学び合う機会を設ける。
- ・ことわざや慣用語の意味を理解し、正しい使い方ができるよう、必要に応じて辞書を活用したり、ノートやカードに記録したりするなど、日常的に意識して取り組む。



小学校 算数

【良好と考えられる項目】

◎台形についての理解(大問1-(1))

◎棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ること。(大問2-(1))

【特に課題と考えられる項目】

★示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること。
(大問1-(3))

★加法と乗法の混合した整数と少数の計算をすること。(大問2-(4))

★示された計算のしかたを解釈し、減法の場合をもとに、除法に関して成り立つ性質を記述すること。(大問3-(2))

	正答率が30%以下	全国との正答率の差が5%以上	領域
1-(3)		○	量と測定
2-(2)		○	数と計算 数量関係
2-(3)		○	量と測定 数量関係
2-(4)		○	数と計算 数量関係
3-(2)	○	○	数と計算
3-(4)		○	数と計算 数量関係
4-(1)		○	数量関係
4-(2)		○	数と計算
4-(3)		○	量と測定 数量関係

算数 1 図形の構成と筋道を立てた考察 (台形)

(3) ゆうたさんたちは、2つの合同な台形で作られた図1の形の面積を求めようとしています。

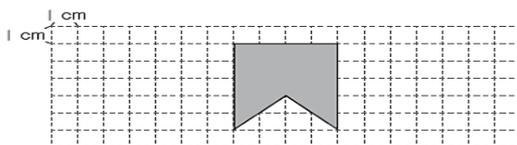


図1

ゆうたさんは、図1の形の面積を、次のように求めました。

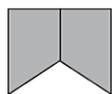
【ゆうたさんの求め方】

$$(3 + 5) \times 2 \div 2 = 8$$

$$8 \times 2 = 16 \quad \text{答え } 16 \text{ cm}^2$$



図1の形を、下の図のように、合同な台形2つとみました。



まさるさんは、【ゆうたさんの求め方】の中の「 8×2 」が、どのようなことを表しているのかを、下のように説明しました。



8は、1つの台形の面積を表しています。
 8×2 は、1つの台形の面積を2倍していることを表しています。

図1の形の面積は、 16 cm^2 であることがわかりました。



私は、ほかの求め方を考えました。

【ちひろさんの求め方】

$$5 \times 4 = 20$$

$$4 \times 2 \div 2 = 4$$

$$\underline{20 - 4} = 16 \quad \text{答え } 16 \text{ cm}^2$$

【ちひろさんの求め方】の中の「 $20 - 4$ 」は、どのようなことを表していますか。「20」と「4」がどのような図形の面積を表しているのかわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、下の図1を使って考えてもかまいません。

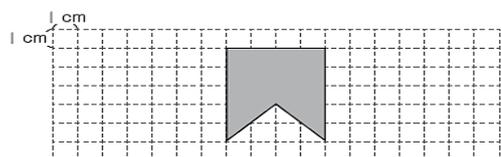


図1

正答(例)

(次の①②③のすべてを書いていること)

- ・「20」は、長方形の面積を表しています。…①
- ・「4」は、三角形の面積を表しています。…②
- ・「20-4」は、長方形の面積から三角形の面積を引いていることを表しています。…③

解答の状況

- ・①②③のすべてを満たしている解答は、36.7%である。
- ・次に多い解答は、①②だけを書いている、③が書けていないものである。(18.0%)

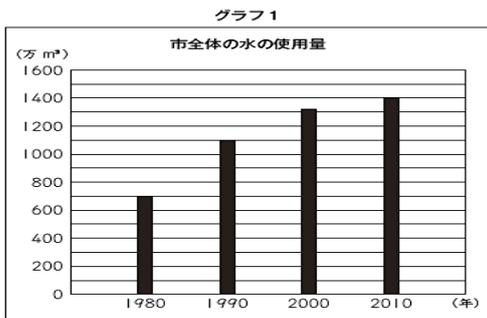
改善に向けて考えられる方策等

- ・図を基に式を表したり、図と関連付けて式の持つ意味を解釈したりする学習活動を取り入れる。
- ・既習の面積の求積公式をもとに、図形をどのように捉えたのか説明し、思考の道筋を明らかにしながら説明する学習活動などを工夫する。

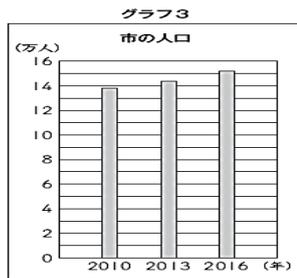
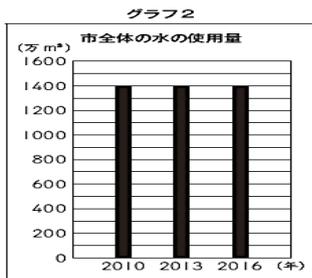
算数 2 資料の特徴や傾向を読み取り判断すること (水の使用量)

2

かいとさんたちは、水を大切に使用しているのかどうかを知りたいと思い、まず、自分たちの住んでいる市では、水をどのくらい使っているのかを調べています。かいとさんは、グラフ1を見つけました。



(3) 次に、かいとさんたちは、市全体の水の使用量には、人口が関係しているのではないかと思い、グラフ2とグラフ3を見つけ、2つのグラフをもとに考えています。



「私たちが、水を大切に使用しているといえるのでしょうか。」



市全体の水の使用量はわかりますが、1人で水をどのくらい使っているのかはわかりません。



グラフ2とグラフ3を見ることで、1人あたりの水の使用量についてもわかります。

(1) 1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、グラフ1からどのようなことがわかりますか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 市全体の水の使用量は、減っている。
- 2 市全体の水の使用量は、変わらない。
- 3 市全体の水の使用量は、増えている。
- 4 市全体の水の使用量は、増えたり減ったりしている。

(2) グラフ1の、2010年の市全体の水の使用量は、1980年の市全体の水の使用量の約何倍ですか。

答えを書きましょう。

あやのさんが言うように、グラフ2とグラフ3を見ることで、2010年から2016年までの1人あたりの水の使用量についてわかることがあります。

2010年から2016年までの、3年ごとの1人あたりの水の使用量について、どのようなことがわかりますか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、グラフ2とグラフ3からわかることをもとに、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 1人あたりの水の使用量は、減っている。
- 2 1人あたりの水の使用量は、変わらない。
- 3 1人あたりの水の使用量は、増えている。
- 4 1人あたりの水の使用量は、増えたり減ったりしている。

(4) さらに、かいとさんは、自分が家で水をどのくらい使っているのかに気になり、洗顔を歯みがきで使う水の量を求めるために、下の式を考えました。

【かいとさんが考えた式】

$$6 + 0.5 \times 2 = \text{㊦}$$



【かいとさんが考えた式】の、㊦に入る数を書きましょう。

正答(例)

(2) 2 (倍)

(3) 【番号】 1

【わけ】 1人当たりの水の使用量は、「市全体の水の使用量÷市の人口」で求めることができます。市全体の水の使用量は変わっていませんが、人口は増えています。したがって、1人当たりの水の使用量は、減っていることになります。

(4) 7

解答の状況

(2)について

- ・「2(倍)」と解答している児童の割合は、72.7%である。

(3)について

- ・正答の条件を満たしている児童の割合は42.2%である。
- ・「2」と解答し、市全体の水の使用量が変わらないことやそれに類する記述をしている児童や記述できていない児童の割合が35.1%見られる。

(4)について

- ・正答児童の割合は36.7%である。
- ・「13」、「2.2または22」と解答している児童が56.3%見られ、特に、「2.2または22」と解答している児童の割合が多い。

改善に向けて考えられる方策等

- ・複数の資料の特徴や傾向(本問の場合には、市全体の水の使用量と市の人口)を関連付けて考察することの必要性に気付かせるとともに、そのことをもとに判断した理由を述べたり、記述したりする学習活動を取り入れる。
- ・誤答した児童の多くは、四則演算のルールを理解できていないと考えられる。同様の計算式が出てきた場合、既習事項を再確認しながら学習活動をすすめるなどの工夫が求められる。

算数 3 計算の仕方の解釈と発展的な考察 (計算の工夫)

3

ともやさんは、 $421 - 298$ や $600 - 201$ のようなくり下がりのあるひき算について、次のように計算しやすい式にして考えました。



【ともやさんの計算の仕方】を見ると、ひき算では、ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、差は変わらないのですね。

【ともやさんの計算の仕方】

$$\begin{array}{r} 421 - 298 = \square \\ \downarrow +2 \quad \downarrow +2 \\ 423 - 300 = 123 \end{array} \quad \left. \begin{array}{l} \text{変わらない} \\ \text{変わらない} \end{array} \right\}$$

だから、 $421 - 298$ の答えの \square は、123 です。

$$\begin{array}{r} 600 - 201 = \square \\ \downarrow -1 \quad \downarrow -1 \\ 599 - 200 = 399 \end{array} \quad \left. \begin{array}{l} \text{変わらない} \\ \text{変わらない} \end{array} \right\}$$

だから、 $600 - 201$ の答えの \square は、399 です。

ゆいなさんは、くり下がりのあるひき算を計算したときにもとにした考えをふり返って、次のようにまとめました。

【ゆいなさんがまとめたこと】

ひき算では、
ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、
ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、
差は変わりません。
このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

ことねさんは、 $400 \div 25$ や $90 \div 18$ のようなわり算についても、計算しやすい式にすることができると思い、下のように考えました。

【ことねさんの計算の仕方】

$$\begin{array}{r} 400 \div 25 = \square \\ \downarrow \times 4 \quad \downarrow \times 4 \\ 1600 \div 100 = 16 \end{array} \quad \left. \begin{array}{l} \text{変わらない} \\ \text{変わらない} \end{array} \right\}$$

だから、 $400 \div 25$ の答えの \square は、16 です。

$$\begin{array}{r} 90 \div 18 = \square \\ \downarrow \div 9 \quad \downarrow \div 9 \\ 10 \div 2 = 5 \end{array} \quad \left. \begin{array}{l} \text{変わらない} \\ \text{変わらない} \end{array} \right\}$$

だから、 $90 \div 18$ の答えの \square は、5 です。

(1) 【ともやさんの計算の仕方】をもとに、 $350 - 97$ について、計算しやすいようにひく数の97を100にした式で考えます。

$$\begin{array}{r} 350 - 97 = \square \\ \downarrow \quad \downarrow \\ \text{㊶} - 100 = \text{㊷} \end{array} \quad \left. \begin{array}{l} \text{変わらない} \\ \text{変わらない} \end{array} \right\}$$

だから、 $350 - 97$ の答えの \square は、 ㊶ です。

上の㊶、㊷、㊸に入る数を書きましょう。

(2) ひき算について書かれた【ゆいなさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。

下の[]の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

わり算では、

※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

(3) 【ことねさんの計算の仕方】をもとに、 $600 \div 15$ について考えます。

$$\begin{array}{r} 600 \div 15 = \square \\ \downarrow \text{㊱} \quad \downarrow \text{㊲} \\ \text{㊳} \div \text{㊴} = \text{㊵} \end{array} \quad \left. \begin{array}{l} \text{変わらない} \\ \text{変わらない} \end{array} \right\}$$

だから、 $600 \div 15$ の答えの \square は、 ㊶ です。

上の㊱にあてはまるものを、下の[]の中から1つ選び、また、上の㊲にあてはまるものを、下の□の中から1つ選んで、それぞれ書きましょう。

ただし、それぞれ、どれを選んでかまいません。

① $\times 2, \div 3, \div 5$ ② $\times 2, \div 3, \div 5$

さらに、上の㊳、㊴、㊵、㊶に入る数を書きましょう。

(4) ゆいさんは、下の問題について考えています。

問題
 リボンを 0.6 m 買ったときの代金が 180 円でした。
 このリボン 1 m 分の代金は、いくらですか。

1 m 分の代金は $180 \div 0.6$ の式で求めることができます。
 ゆいさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。

$180 \div 0.6 = \square$
 $\downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10$
 $1800 \div 6 = 300$ 変わらない
 だから、 $180 \div 0.6$ の答えの \square は、300 です。

$1800 \div 6$ は、何 m 分の代金を求めている式といえますか。
 下の **あ** から **え** までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

- あ** 0.6 m 分の代金
- い** 1 m 分の代金
- う** 6 m 分の代金
- え** 10 m 分の代金

正答(例)

- (2) わられる数とわる数に同じ数をかけても、
 わられる数とわる数を同じ数で割っても、商
 は変わりません。
- (4) 「い」(1 m 分の代金)

解答の状況

(2) について

- ・正答例のように、指定された「わられる数」「わる数」「商」の3つの言葉を使用して解答している児童の割合は、23.4%である。
- ・誤答のうち最も多いものは、「わられる数」「わる数」については書けているが、「商」について書けていないもの、「わられる数」「わる数」について具体的な数字で書いているものなどである。(21.9%)

(4) について

- ・正答児童の割合は31.3%である。
- ・「い 1 m 分の代金」以外の「あ」「う」「え」を解答している児童が同程度見られ、そのうち「う 6 m 分の代金」と解答している児童の割合が多い。

改善に向けて考えられる方策等

- ・日常の学習活動の中でも、式の持つ意味を理解したり、計算に関して成り立つ性質を見出し、言葉で表現したりするなどの工夫が求められる。

算数 4 日常生活の事象を数理的に捉え判断すること (遊園地での待ち時間)

4

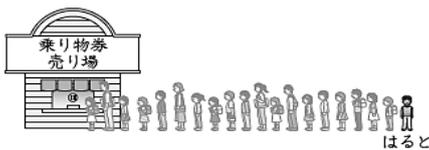
はるとさんたちは、遊園地に来ています。

(1) 乗り物券を買うために列に並びました。

はるとさんは、だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知りたいと思いました。

はるとさんは、前から数えて 20 番目でした。

列に並んでいる人は、同じ進みぐあいです。



だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るためには、何を調べればよいですか。

下の **ア** から **エ** までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア** 5 人で何 m の列になっているか。
- イ** 5 m で何人並んでいるか。
- ウ** 5 分後は何時何分になっているか。
- エ** 5 分間で何人買ったか。

(2) 次に、はるとさんたちは、観覧車に乗るために列に並んでいます。

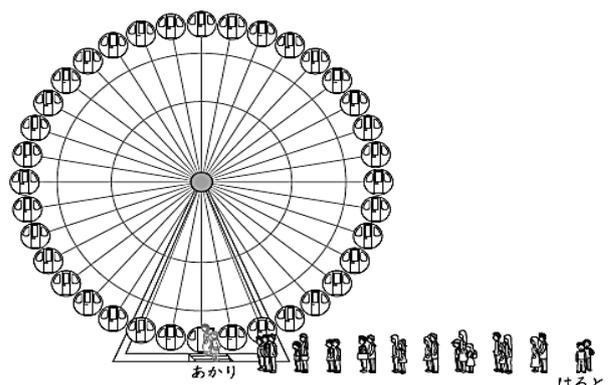
観覧車のゴンドラは 36 台で、ゴンドラ 1 台に 1 組ずつ乗ります。ゴンドラは 1 台来るのに 20 秒かかります。

今の先頭はあかりさんたちです。はるとさんは、あかりさんたちの 10 組後ろにいます。

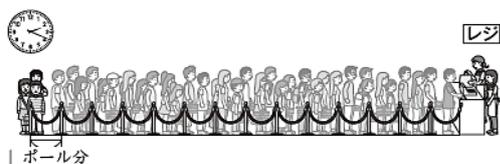
あかりさんたちがゴンドラに乗ってから、はるとさんが何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを考えます。

はるとさんがゴンドラに乗ることができるのは何秒後かを求める式を書きましょう。

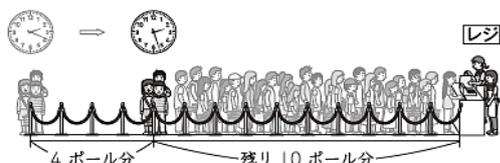
ただし、計算の答えを書く必要はありません。



(3) はるとさんたちは、限定商品を買いたいと思っています。次の予定があるので、午後3時までにはレジに着きたいと考えています。
列に並ぶと、レジまでは14ポール分ありました。ポールとポールの間の長さはどこも同じです。



はるとさんたちが並んでから、4ポール分進むのに8分かかり、残り10ポール分になりました。午後3時までには、残り33分です。そこで、33分以内にレジに着くことができるかどうかを考えてみました。

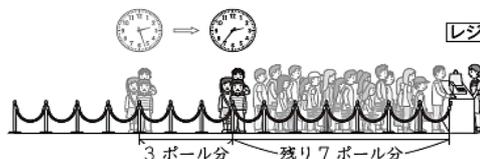


はると

4ポール分進むのに8分かかったことから、残り10ポール分も同じ進みぐあいでも進むとして考えます。
 $8 \div 4 = 2$ で、1ポール分には2分がかかります。
残り10ポール分なので、 $2 \times 10 = 20$ で、20分がかかります。
だから、33分以内にレジに着くことができます。

ところが、レジにいる店員さんが減ってしまいました。それからは、3ポール分進むのに9分かかり、残り7ポール分になりました。午後3時までには、残り24分です。

そこで、はるとさんたちは、24分以内にレジに着くことができるかどうかを、もう一度考えてみました。



あかり

3ポール分進むのに9分かかったことから、残り7ポール分も同じ進みぐあいでも進むとして考えます。

3ポール分進むのに9分かかかる進みぐあいでも進むとすると、残り7ポール分進むのにかかる時間は何分間ですか。

求め方を言葉や式を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。さらに、24分以内にレジに着くことができるかどうかを、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

- 1 着くことができる。
- 2 着くことができない。

正答(例)

(1) 「エ」

(2) 「20(秒)×10(ポール)」

(3) 【求め方】

$9 \div 3 = 3$ で、1ポール分進むには3分かかります。残り7ポール分なので、 $3 \times 7 = 21$ で、21分間かかります。

【答え】 21(分間)

【番号】 1

解答の状況

(1)について

- ・「エ」と解答している児童の割合は、77.3%である。
- ・誤答のうち最も多いものは、「イ 5分後は何時何分になっているか。」を選択している場合である。(10.9%)

(2)について

- ・正答児童の割合は53.1%である。
- ・誤答のうち最も多いものは、「36を使った式を解答している場合である。(21.1%)

(3)について

- ・正答児童の割合は49.2%である。
- ・誤答のうち最も多いものは、正答の条件をいずれも満たしていない場合である。(28.1%)

改善に向けて考えられる方策

- ・日常の学習活動の中でも、事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、得られた結果を振り返り、意味づけしたり、活用したりすることができるよう工夫することが求められる。

※該当する「問い」は、ありませんでした。

【良好と考えられる項目】

- ◎文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つこと。(大問1-三)
- ◎話合いの話題や方向を捉えること。(大問2-一)
- ◎書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること。(大問3-一)
- ◎語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解すること。(大問4)

【課題と考えられる項目】

- ★文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること。(大問1-二)
- ★封筒の書き方を理解して書くこと。(大問1-四)
- ★話合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持つこと。(大問2-三)



【良好と考えられる項目】

- ◎簡単な連立二元一次方程式を解くこと。(大問 2)
- ◎平行移動の理解(大問 3)
- ◎簡単な場合についての確率を求めること。(大問 5)
- ◎証明の根拠として用いられている三角形の合同条件や反例の理解(大問 7-1)(2)

【特に課題と考えられる項目】

- ★事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。(大問 6-2)
- ★資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。(大問 8-2)

	正答率が30%以下	全国との正答率の差が5%以上	領域
6-(2)	○		関数
8-(1)		○	資料の活用
8-(2)		○	資料の活用

数学 6 事象の数学的な解釈と問題解決の方法 (冷蔵庫)

6 健太さんの家では、冷蔵庫の購入を検討しています。健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて調べたことを、次のような表にまとめました。

健太さんが作った表

	冷蔵庫A	冷蔵庫B	冷蔵庫C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000 円	100000 円	150000 円
1年間あたりの電気代	15000 円	11000 円	6500 円

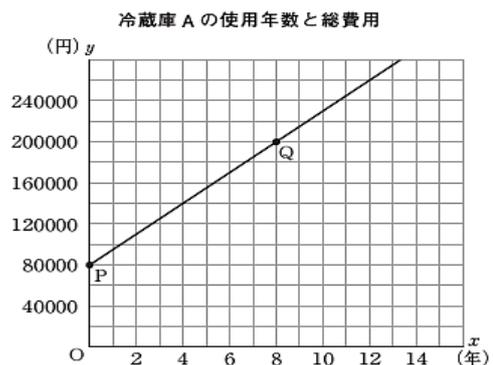
健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて、使用年数に応じた総費用を考えることにしました。そこで、それぞれの冷蔵庫において、1年間あたりの電気代は常に一定であるとし、次の式で総費用を求めることにしました。

$$(\text{総費用}) = (\text{本体価格}) + \left(\frac{\text{1年間あたりの電気代}}{\text{電気代}} \right) \times (\text{使用年数})$$

例えば、冷蔵庫Aを購入して3年間使用するときの総費用は、 $80000 + 15000 \times 3 = 125000$ となり、125000 円です。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 冷蔵庫Aを購入してx年間使用するときの総費用をy円とします。このxとyの関係を、健太さんは次のような一次関数のグラフに表しました。



このグラフにおけるx座標が0である点をP、x座標が8である点をQとします。点Pのy座標と点Qのy座標の差は、冷蔵庫Aについての何を表していますか。下のAからオまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

- A 本体価格
- I 使用年数
- ウ 1年間あたりの電気代
- エ 購入してから8年間の電気代
- オ 購入して8年間使用するときの総費用

(2) 健太さんの家では、7ページの健太さんが作った表で、容量が500Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお姉さんは、冷蔵庫を購入してx年間使用するときの総費用をy円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」
お姉さん「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」
健太さん「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ



正答(例)

(2)

〈アを選択した場合〉

- 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、使用年数と総費用の関係から連立方程式をつくり、それを解いて使用年数の値を求める。

〈イを選択した場合〉

- 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、使用年数と総費用の関係を一次関数のグラフに表して、その交点の座標を読み取り、使用年数の値を求める。

解答の状況

(2)について

- 正答生徒の割合は30.0%、無解答生徒の割合は12.7%である。
- アを選択した場合の記述として、B、Cの冷蔵庫についての方程式をつくり、その連立方程式を解き、使用年数の値を求めることがすべて書けていない誤答が多い。
- イを選択した場合の記述として、「グラフを用いること」か「使用年数を読み取ること」のいずれか一方しか記述していない誤答が多い。

改善に向けて考えられる方策等

- 学習活動の中で問題解決のために数学を活用する方法を考え、言葉で説明できるようにするなどの工夫が求められる。
- 本問のような日常生活に役立つ問いを数学的に考えさせるなど、教材の工夫も求められる。

数学 8 分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること (図書だより)

8 図書委員会では、生徒の読書活動の状況を調べ、図書だよりにまとめようと考えています。そこで、図書委員の航平さんと桃子さんは、全校生徒270人を対象に、最近1か月間に読んだ本の冊数と、1日あたりの読書時間が何分であるかを回答するアンケートを実施しました。

アンケートのお願い

・最近1か月間で読んだ本は何冊ですか。(冊)

・1日あたりの読書時間は何分ですか。(分)

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 二人は、実施したアンケートをもとに、最近1か月間に読んだ本の冊数について、下のような表にまとめました。下の表において、読んだ本の冊数の最頻値を求めなさい。

最近1か月間に読んだ本の冊数

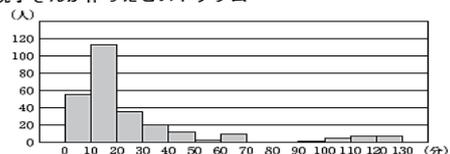
読んだ本の冊数(冊)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
人数(人)	13	114	74	30	11	7	4	4	3	4	6	270

(2) 二人は、実施したアンケートをもとに、1日あたりの読書時間について、次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは、例えば、1日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

航平さんが作った表

	平均値	最大値	最小値
1日あたりの読書時間(分)	26.0	120	0

桃子さんが作ったヒストグラム



二人は、上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話し合っています。

航平さん「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」
桃子さん「でも、ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると、航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ」という考えは適切でないことがわかります。その理由を、桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

正答(例)

(1) 「1」

(2) 〔例1〕

- 1日あたりの読書時間である26分が、山の頂上の位置にないので、1日に26分くらい読書をしている生徒が多いというのは適切でない。

〔例2〕

- 度数が最大となる階級は10分以上20分未満の階級であるので、1日に26分くらい読書をしている生徒が多いというのは適切でない。

〔例3〕

- 1日あたりの読書時間である26分が含まれる階級は、度数が最大となる階級ではないので、1日に26分くらい読書をしている生徒が多いというのは適切でない。

解答の状況

(1)について

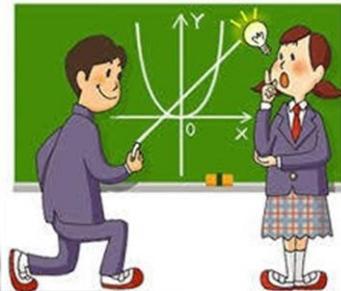
- 誤答の「114」と解答している生徒は、読んだ本の最頻値と最頻値である1冊の本を読んだ人数を混同していると考えられる。(6.0%)

(2)について

- 正答生徒の割合は32.7%、無解答生徒の割合は22.7%である。
- 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

改善に向けて考えられる方策等

- 日常の学習活動の中でも、生徒それぞれの考えを持ち寄り、グループで話し合う機会を設けたり、話し合ったことを言葉でまとめ、発表したりするなどの工夫が求められる。



中学校 英語

【良好と考えられる項目】

- ◎情報を正確に聞き取ることができること。(大問1)
- ◎情報を正確に読み取ることができること。(大問5, 6)

【特に課題と考えられる項目】

- ★基本的な語や文法等を理解して正しく文を書くこと。(大問9)
- ★与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに留意してまとまりのある文章を書くこと。(大問8, 10)

	正答率が30%以下	全国との正答率の差が5%以上	領域
4	○		聞くこと
8	○		読むこと
9-(2)-②	○		書くこと
9-(3)-②	○	○	書くこと
10	○		書くこと

【聞くこと】 正答率 8.7%

4 (放送問題)

英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。
メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。

(音声メッセージの内容)

Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer. Thank you.

解答例

You can try the judo club. Why don't you join the music club?

解答の状況

- ニックができる部活動について、的確なアドバイスになっていないものや文法事項等の誤りがあるために、伝えたい内容が理解できない解答が約50%ある。
- 正答には至らないものの、自分の思いをなんとか伝えようとする粘り強さや意欲は見られる。

パワーアップのポイント

- 日頃の学習活動などにおいて、生徒と英語でやり取りする中で、把握した内容について適切に反応しているかを確認する機会を設けるなど、実際に聞いて応じる活動を体験的に積み重ねる。

【読むこと】 正答率 12.8%

- 8 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai!* We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

(注) the World Food Programme: 世界食糧計画 (国際連合の事業)
project: 事業 waste: ~を無駄にする rice ball: おにぎり
not only ~, but also ... : ~だけでなく, ...も

解答例 We should not buy too much food.
If I can't eat everything, I can share it with others.

解答の状況

- 食糧を無駄にすることをやめるために自分が取り組めることを具体的に示していなかったり、自分の考えを伝える上で支障となる語や文法事項等の誤りがあったりするために、伝えたい内容が理解できない生徒が約70%弱いる。
- 正答には至らないものの、自分の考えをなんとか伝えようとする粘り強さや意欲は見られる。

パワーアップのポイント

- 「読んで意味が分かること。」と「自分の考えを持ち、自分の言葉で表現できるようになること。」を統合的に捉えて学習活動を工夫することが大切である。例えば、①英語で読み取ったことをもとに、②日本語で自分の主張したいことをまとめる。③ペアやグループで自分の考えを伝えたり、話し合ったりする。④最後に、話し合ったことを参考にしつつ、自分の考えを英文にまとめあげていく。などの学習活動も考えられる。

【書くこと】 9-(2)-② 9-(3)-② 正答率 27.5%

(2) 次の①、②について、例を参考にしながら、必要があれば()内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、それぞれ会話が成り立つように英語を完成させなさい。

(例) <放課後に図書室で>
 A : Can you help me now?
 B : Sorry. I (do) my homework now.
 [答え] am doing

① <朝の通学路で>

A : I watched a baseball game yesterday. It was so exciting.
 B : Oh! (like) baseball?
 A : Of course. I love playing and watching baseball.

② <休み明けに教室で>

A : Was your vacation good?
 B : Yes. My family and I went to Australia.
 (stay) there for two weeks.
 A : Wow! Wonderful.

(3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia
②	住んでいる都市	Rome
③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×

解答例 (2)-② We stayed
 (3)-② She lives in Rome.

解答の状況

(2)-②について

- 「My family and I」がオーストラリアに行ったので、解答の主語は「We」とするところを「I」としている生徒が約10%、無解答の生徒が約11%みられる。
- その他、誤答例としては、過去時制になっていないもの、肯定文になっていないもの、などが見られる。

(3)-②について

- 誤答例の多くは、動詞の活用形に誤りがあるもの (She live in ~)、語や文法事項等に誤りがあるもの (She live Rome.) である。

人称、時制、動詞の活用などの文法知識を、実際のコミュニケーションの場面で活用することに課題があると考えられる。

パワーアップのポイント

- コミュニケーションにおいて、時制や人称は大切な事柄であり、まとまりのある対話文や文章の中で、ふさわしい時制や人称を考えさせたりする学習活動なども考えられる。
- 文法指導とコミュニケーション能力の育成を図る指導は対立するものではなく、円滑なコミュニケーションを行うためにはどちらも必要不可欠である。このことを強く認識しながら授業改善に取り組むことが大切と考えられる。

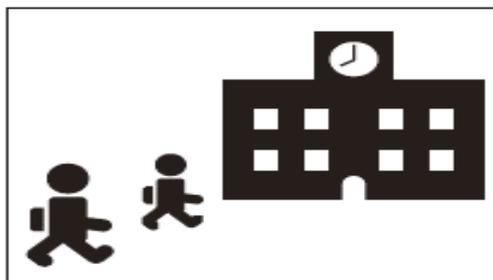
【書くこと】 正答率 0.7%

- 10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。

【 A 】



【 B 】



解答例

【A案を選んだ場合】

I think A is better than B. It shows a teacher and students in a classroom, so it looks like a school. I don't think B is good because it looks like a library.

解答の状況

- 正答の条件である「①どちらの案がよいか、1つ選んで意見を書いている。②選んだ理由等について、2つの案にふれながら書いている。③25語以上の英語で書いている」の3つをすべて満たし、コミュニケーションに支障をきたすような誤りがない英文で答えている生徒は、ほとんど皆無である。
- 一方で、①、②の条件は満たしていないものの、③の条件は満たし、25語以上の英語で文章を書いた生徒が59%(全国；46.7%)いることから、自分の考えや理由などをなんとか伝えようとする粘り強さや意欲はあると考えられる。

パワーアップのポイント

- 「話して書く」、「読んで書く」など、領域を統合した指導を工夫する。
- 書いた後の言語活動として、英文を生徒同士お互いに読みあったり、内容について質問しあったりなどし、推敲する活動を取り入れる。
- 「書くこと」を意識した指導を多く取り入れる。
- I, You など、人が主語になる場合のほか、無生物が主語になる場合などの文に慣れ親しむ機会を設ける。

(3) 児童生徒質問紙・学校質問紙に関する調査の状況

ア 学校運営に関する取組状況(抜粋)

学校質問紙による回答結果から、香美町における取組状況は次の表のとおりである。

◆学校業務改善の状況について

質問番号	質問事項
小(21)、中(21)	学校として業務改善に取り組んでいますか。

	よくしている。	どちらかといえば、している。
小学校	8校	2校
中学校	3校	1校

◆PDCAサイクルの確立について

質問番号	質問事項
小(17)、中(17)	児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

	よくしている。	どちらかといえば、している。
小学校	3校	7校
中学校	2校	2校

◆学習指導等の計画作成時の教職員同士の協力について

質問番号	質問事項
小(28)、中(29)	学習指導と学習評価の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか。

	よくしている。	どちらかといえば、している。
小学校	4校	6校
中学校	3校	1校

◆学校運営の組織的取組について

質問番号	質問事項
小(30)、中(31)	学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。

	よくしている。	どちらかといえば、している。
小学校	5校	5校
中学校	4校	—

◆自校の分析結果の学校全体での活用について

質問番号	質問事項
小(63)、中(79)	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

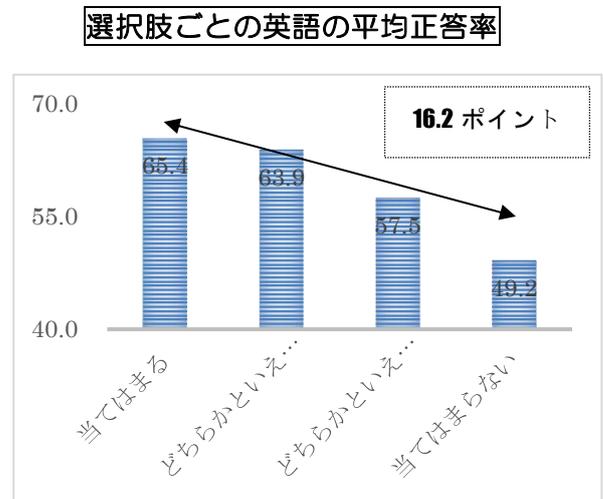
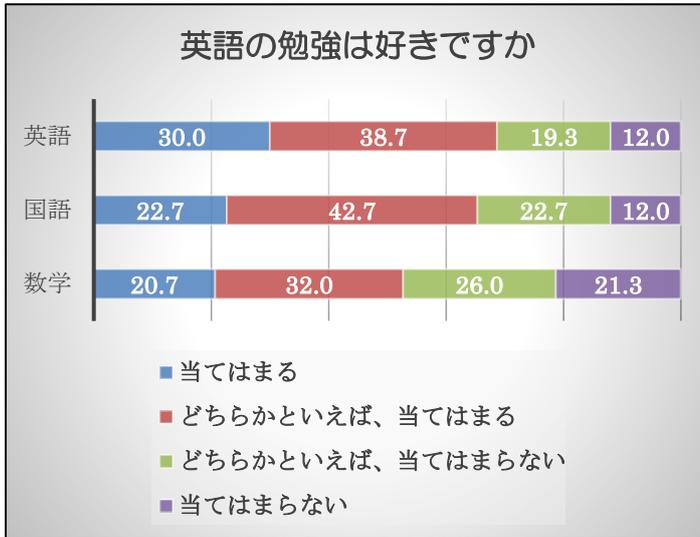
	よくしている。	どちらかといえば、している。
小学校	4校	6校
中学校	2校	2校

○ 取り上げたどの項目においても、すべての学校が肯定的に回答しており、学校運営の円滑化に向けて、学校長のリーダーシップのもと、教職員が一体となって取り組んでいる様子がうかがえる。

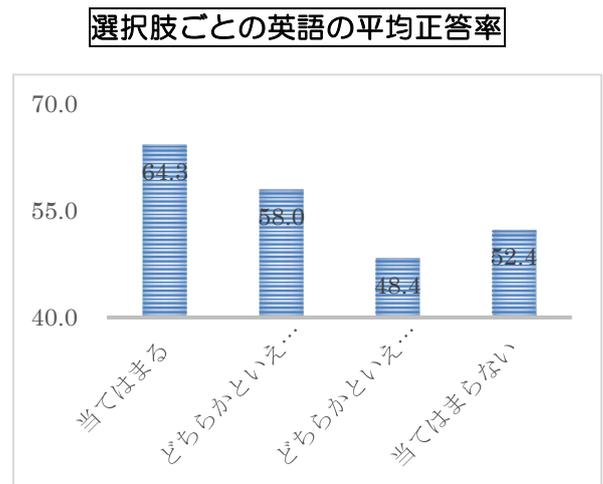
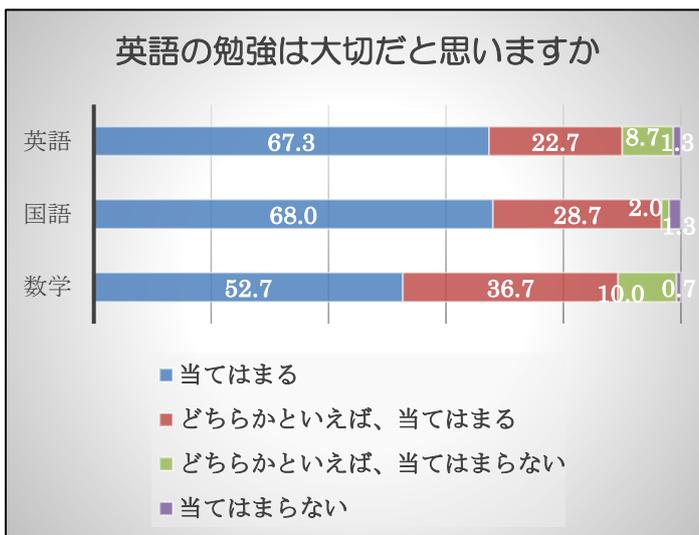
イ 中学校英語に関する状況

今回、初めて実施された中学校英語に関する状況は、概ね次のとおりである。

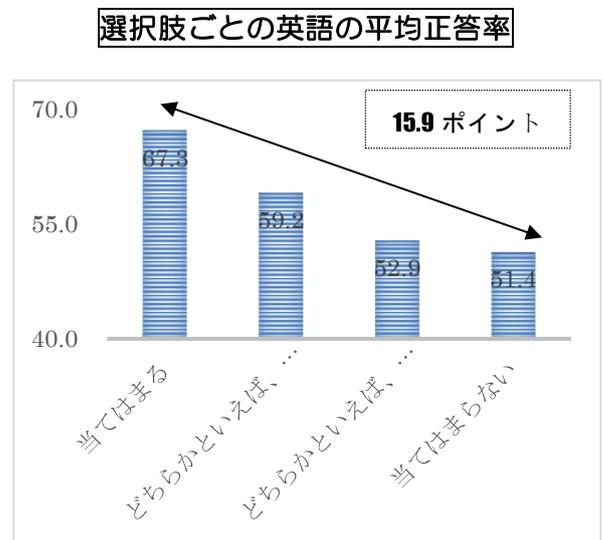
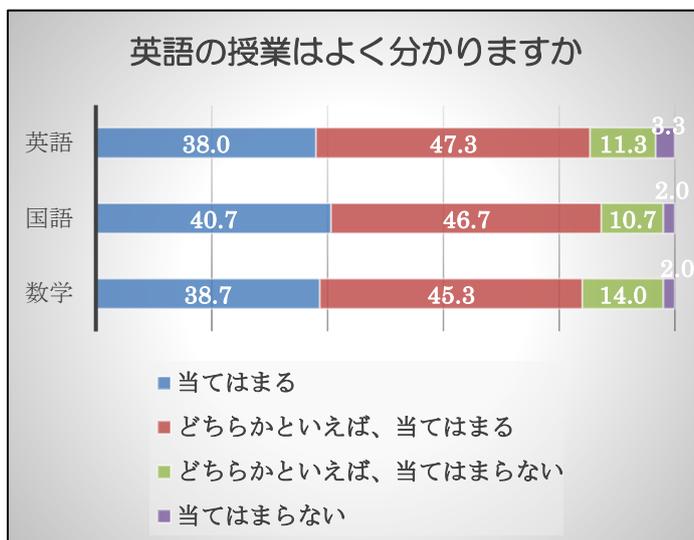
■生徒の興味関心等について【Q54～Q59;生徒質問紙から Q25;児童・生徒質問紙から】
Q54「英語の勉強は好きですか。」(単位; % 以下同じ)



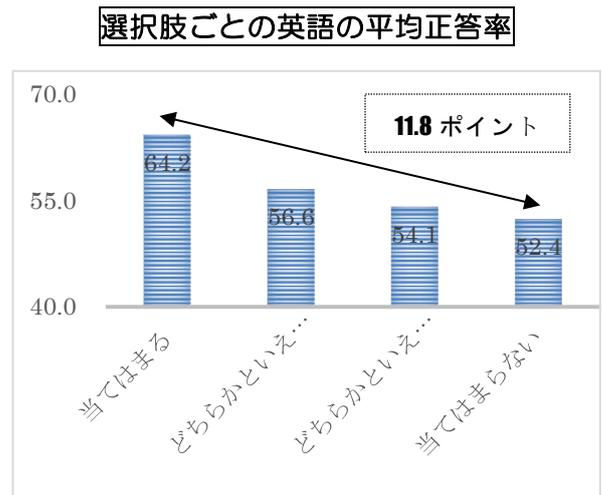
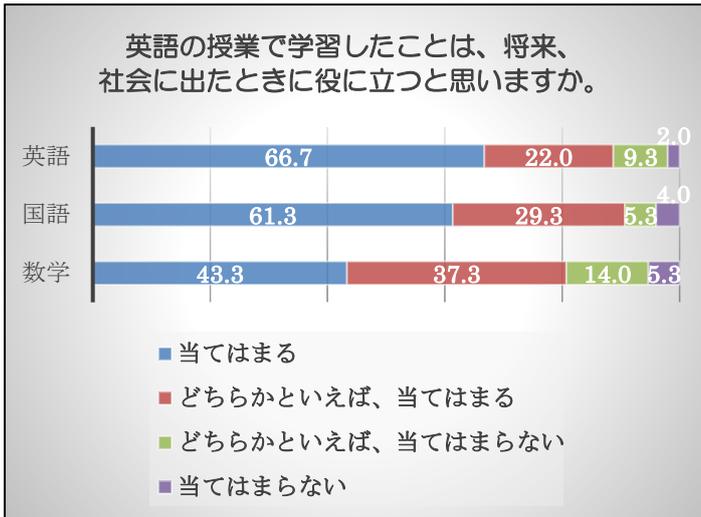
Q55「英語の勉強は大切だと思います。」



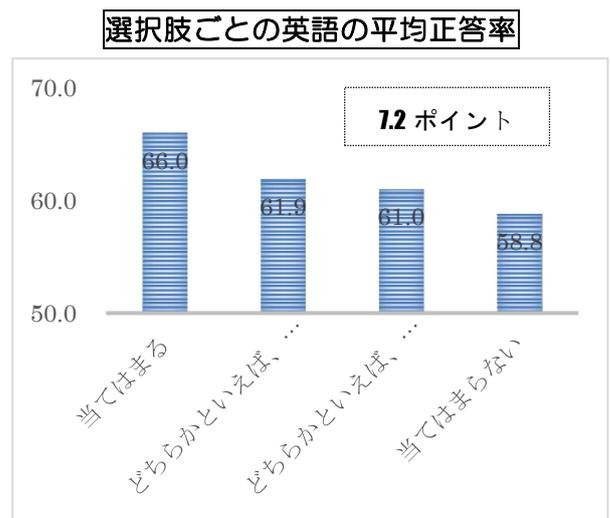
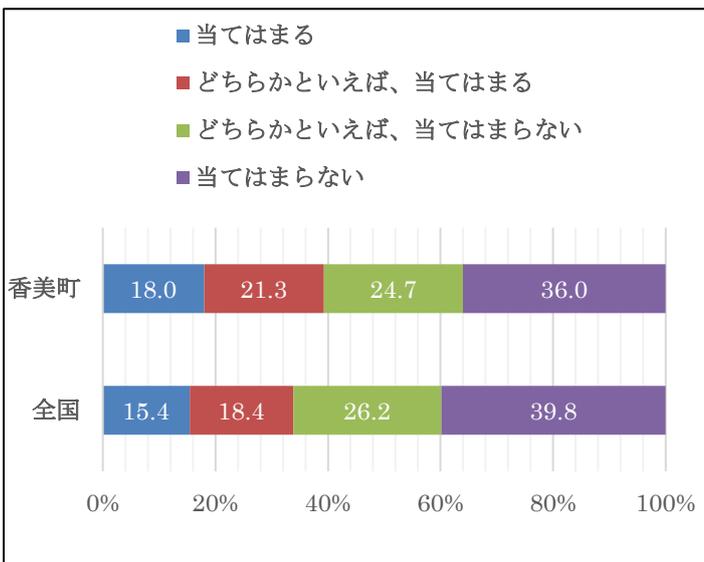
Q56「英語の授業はよく分かりますか。」



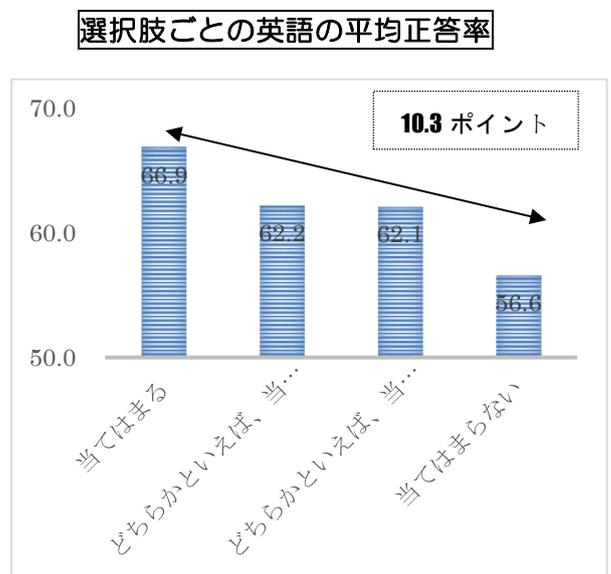
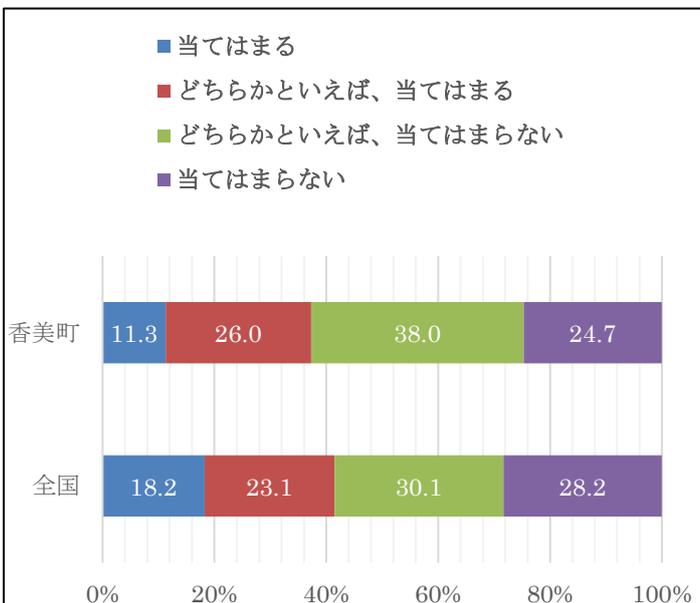
Q57 「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」



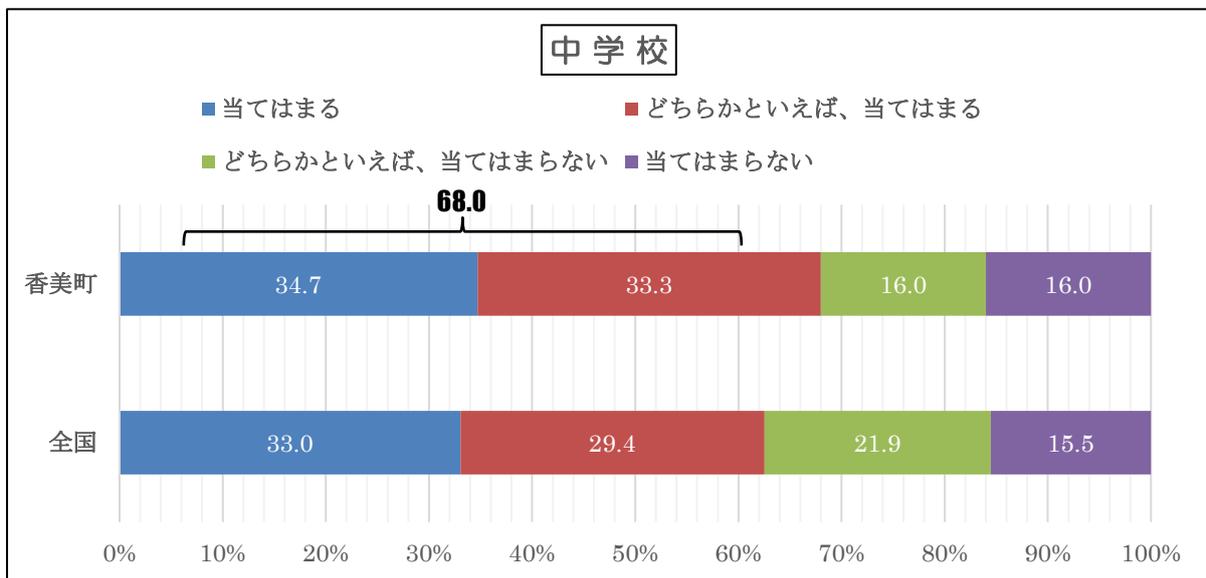
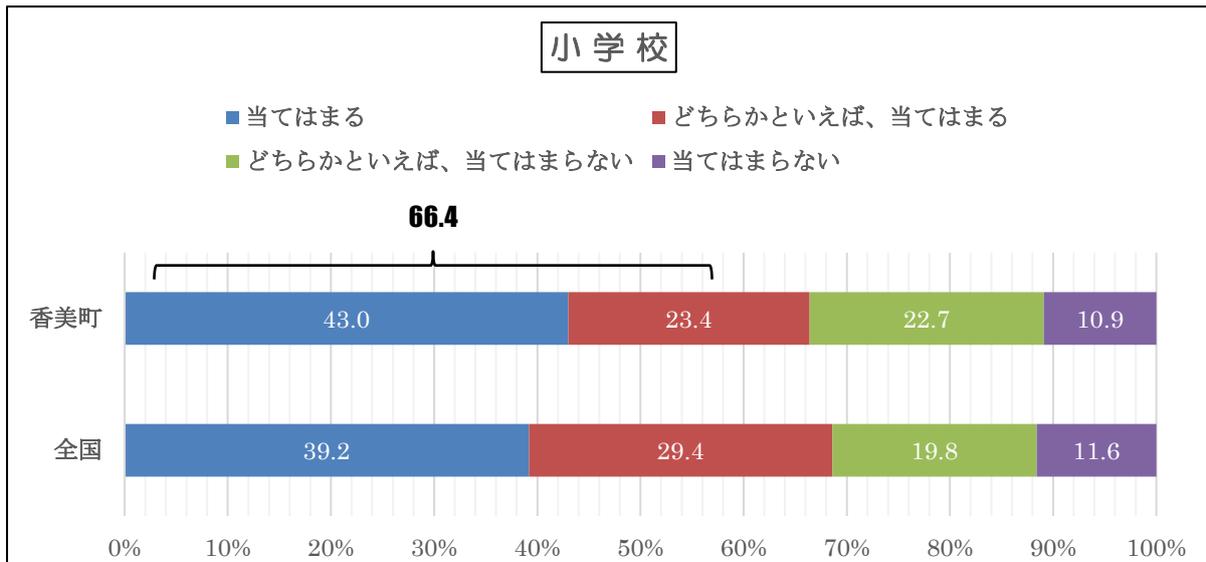
Q58 「あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会(地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど)が十分にありましたか。」



Q59 「あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。」



Q25 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。」



〔分析及び考察〕

- 3教科(国語、数学、英語)の中では、「英語の勉強が好き」と回答している生徒の割合が最も多い。
- 「英語の勉強が大切」と考えている生徒の割合は、9割に近い。
- 「英語の授業がよく分かる」の問いに対して肯定的に回答している生徒の割合は、国語、数学の割合と同程度である。
- 「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と考えている生徒の割合は9割に近い。
- 英語に対する興味関心や授業の理解度に関する質問に肯定的に回答している生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。
- 「日常的に英語を使う機会が多い」「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」の問いに肯定的に回答している生徒は4割に近く、それらの質問に肯定的に回答している生徒の方が、平均正答率が高い。
- ◆ 領域別(「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」)の学習状況に対する回答においても、肯定的に回答している生徒の方が平均正答率が高く、学校における指導の影響の大きさがうかがえる。(文部科学省による分析から)

ウ 自己変容の状況について（小6時と中3時の3年間の経過から）

質問紙の経年比較により、今年度の中学3年生（150名）の意識が、小学校6年生（157名）の時（平成28年度）と比較してどのように変化しているか追跡した。

<挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感>

*数字は平成31年度(令和元年度)生徒質問紙番号〔% 上段；香美町 下段；(全国) 差は上段－下段〕

質問事項	回答状況		小6時の回答状況 (H28年度)		中3時の回答状況 (H31年度)		全国との比較 (±2%超で表記) (差B－差A)	
				差A		差B		
5) 自分には、よいところがあると思いますか。	80.3	(76.3)	4.0		80.7	(74.1)	6.6	➡
8) 将来の夢や目標を持っていますか。	83.4	(85.3)	-1.9		72.0	(70.5)	1.5	➡
9) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。	93.6	(94.4)	-0.8		97.4	(93.9)	3.8	➡
13) 学校のきまり〔規則〕を守っていますか。	93.0	(91.5)	1.5		99.5	(96.2)	4.4	➡
15) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	98.1	(96.6)	1.5		98.7	(95.1)	3.6	➡
16) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	96.1	(93.8)	2.3		97.3	(94.3)	3.0	—
18) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	84.1	(76.1)	8.0		76.6	(70.3)	6.3	—

〔分析〕

- 3年間の成長過程の中で回答の割合が低くなっている項目はあるものの、全体的に自己を肯定的にとらえ、夢や目標を持って何事にも挑戦しようとしている生徒の様子が見える。今後とも、夢や志を持って取り組めるよう、更なるキャリア教育の推進などが求められる。
- 規範意識は、全国、香美町とも高まっている。特に、「いじめは、どんな理由があってもいけないこと。」という意識が高い。これまでからの人権教育の充実による人権意識の高揚によると考えられる。



<学習に対する関心、意欲、態度>

*数字は平成31年度(令和元年度)生徒質問紙番号〔% 上段；香美町 下段；(全国) 差は上段－下段〕

質問事項	回答状況		小6時の回答状況 (H28年度)		中3時の回答状況 (H31年度)		全国との比較 (±2%超で表記) (差B－差A)	
				差A		差B		
17) 家で自分で計画を立てて勉強していますか。	66.9	(62.2)	4.7		48.7	(50.4)	-1.7	➡
46) 算数・数学の勉強は好きですか。	73.9	(66.0)	7.9		52.7	(57.9)	-5.2	➡
47) 算数・数学の勉強は大切だと思いますか。	95.5	(91.9)	3.6		89.4	(84.3)	5.1	—
48) 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。	86.0	(80.2)	5.8		84.0	(73.9)	10.1	➡
※) 算数・数学の問題の解き方が分からないときには、諦めずにいろいろな方法を考えますか。	84.1	(81.0)	3.1					
49) 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。	95.5	(89.9)	5.6		80.6	(76.2)	4.4	—

〔分析〕

- 小学校から中学校に進級し、教科も「算数」から「数学」に変わり、回答の割合は低下傾向にある。義務教育段階での「算数・数学離れ」を克服していく方策が求められる。
- 「算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ」と考えている生徒が児童の時と比較して減少している。
- 算数・数学の学習をすすめるに当たっては、それらの教科の学習が、キャリア教育の視点から日常生活と結びついている場面を児童生徒に提示したり、好奇心を持って学習に臨んだりするなどの指導方法の工夫改善が求められる。

<学校生活等、基本的な生活習慣、地域や社会に対する興味・関心>

*数字は平成31年度(令和元年度)生徒質問紙番号〔% 上段；香美町 下段；(全国) 差は上段－下段〕

質問事項	回答状況		全国との比較 (±2%超で表記) (差B－差A)		
	小6時の回答状況 (H28年度)	差A	中3時の回答状況 (H31年度)	差B	
1) 朝食を毎日食べていますか。	95.5 (95.5)	0.0	98.0 (93.1)	4.9	▲
12) 学校に行くのは楽しいと思いますか。	86.0 (86.3)	-0.3	88.0 (81.9)	6.1	▲
11) 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、 (学級みんなで話し合っ て決めたことなどに 協力して取り組み、) うれしかったことが ありますか。	94.3 (86.3)	8.0	90.6 (82.8)	7.8	—
※) 普段(月～金曜日)、1日 当たりどれくらいの時間、 携帯電話やスマートフォンで 通話やメール、インターネット をしますか。(携帯電話や スマートフォンを使って ゲームをする時間は除く) ※2時間未満の児童生徒の率	42.0 (50.7)	-8.7			
◆ 携帯電話やスマートフォンを 持っている。	49.7 (38.9)	10.8			
※) 地域や社会で起こっている 問題や出来事に関心があり ますか。	68.1 (70.6)	-2.5			
※) 地域や社会をよくするた めに何をすべきかを考える ことがありますか。			47.4 (39.4)		

〔分析〕

- 中学生になり朝食を毎日食べる生徒が、小学校6年時に比較して増えている。
- 「学校へ行くのは楽しいと思うか。」の質問項目が復活し、小学校6年時と比較して「楽しい」と肯定的に回答している生徒が増えている。
- 学校生活や基本的な生活習慣については、高い回答率で概ね良好と考えられる一方で、地域社会への貢献度については課題が見られる。地域の一員としての生き方を考える取組や実践が、なお一層求められる。

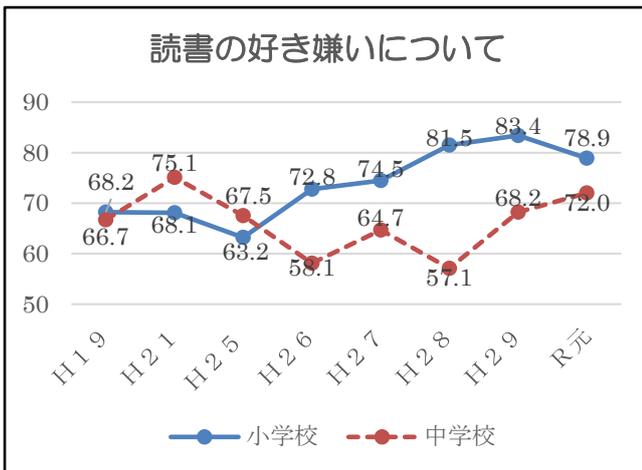


「全国との比較(±2%超で表記)」について

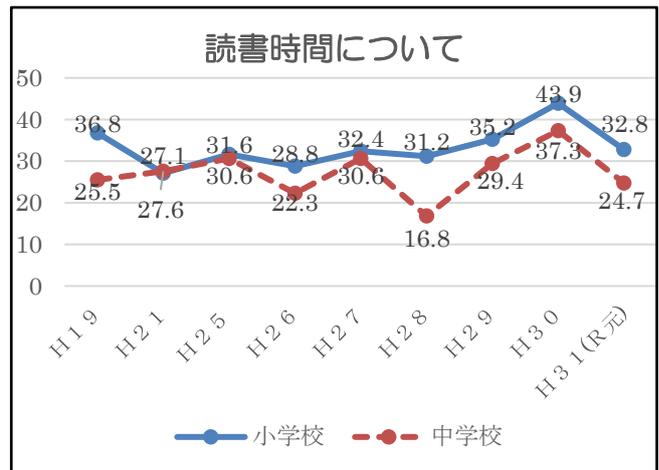
【中3時の差B－小6時の差A】の割合が、2%を超えて高い場合には上向き矢印、2%を超えて低い場合には下向き矢印として表記している。

エ これまでの回答状況の変化から

① 【読書活動について】（「3つの町民運動」関連）



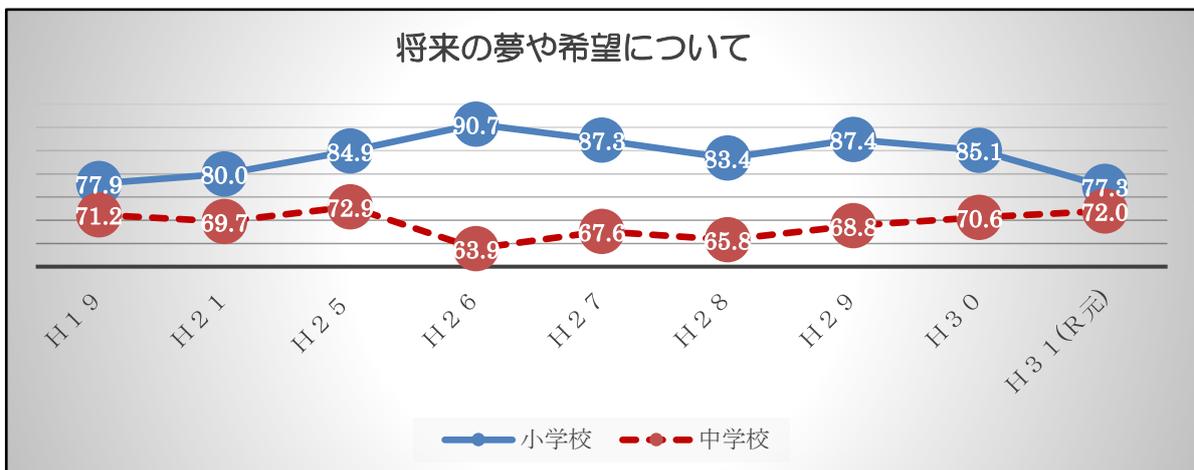
(注) 「読書が好き」の割合、



(注) 平日、学校の授業時間以外に30分以上読書する児童・生徒の割合

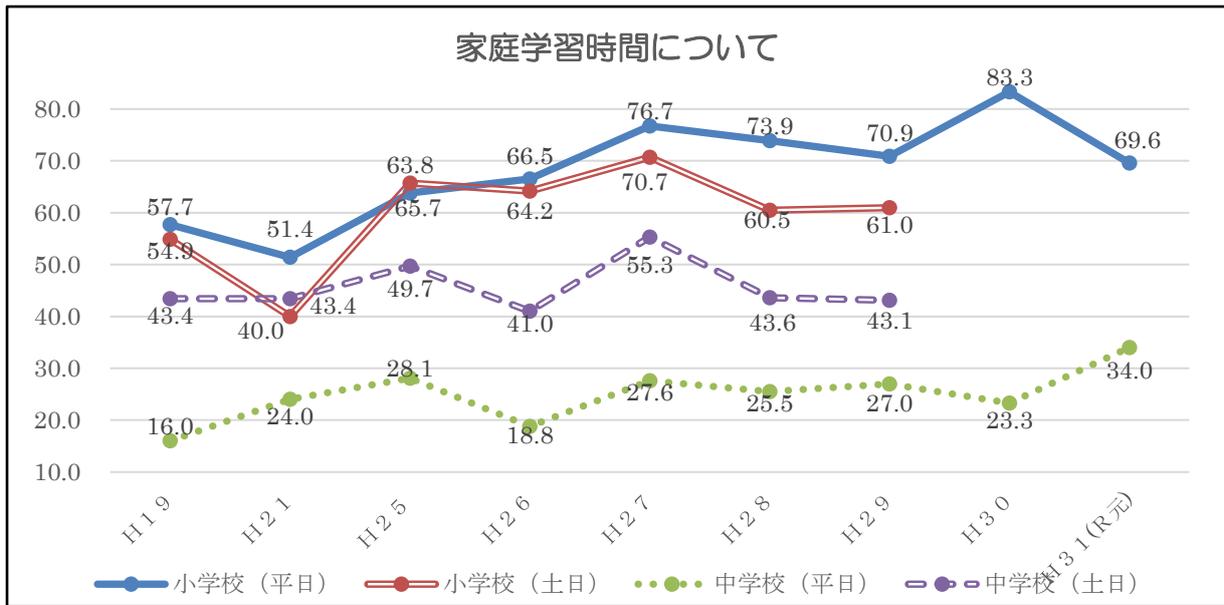
- 今年度は、児童生徒とも読書時間が減少している。
- 小学校6年生時(平成28年度)には「30分以上読書する」と回答した割合が31.2%であったものが、中学校3年生時には24.7%にまで減少している。
- 児童生徒とも、1日当たりの読書時間と各教科の平均正答率との間には有意な相関は見られなかった。(P31参照)
- 今後とも「3つの町民運動」における「読書」の取組を着実に進めていくことが求められる。

② 【将来の夢や目標について】（キャリア教育推進関連）



- 今年度は、小学校は減少、中学校は微増している。
- 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、児童では80%台程度で推移している。一方、生徒では70%前後で推移している。
- 今後とも、校種間の連携を図りつつ、一貫化教育の取組の中でキャリア教育の推進体制の整備を図り、児童生徒が、社会の変化を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう取り組んでいくことが求められる。

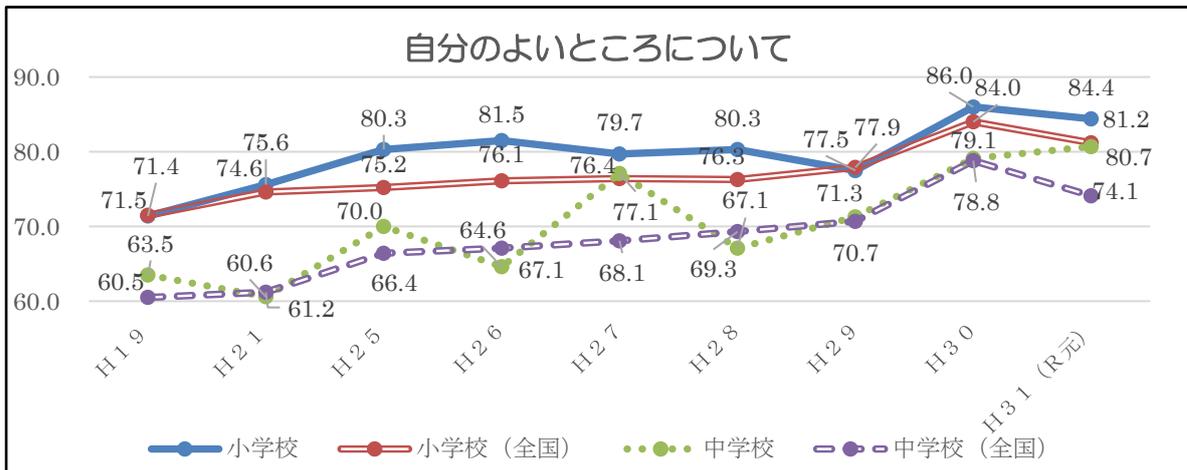
③【家庭学習について】（キャリア教育推進関連）



（注）児童…1時間以上（平日・土日とも）、生徒…2時間以上（平日・土日とも）

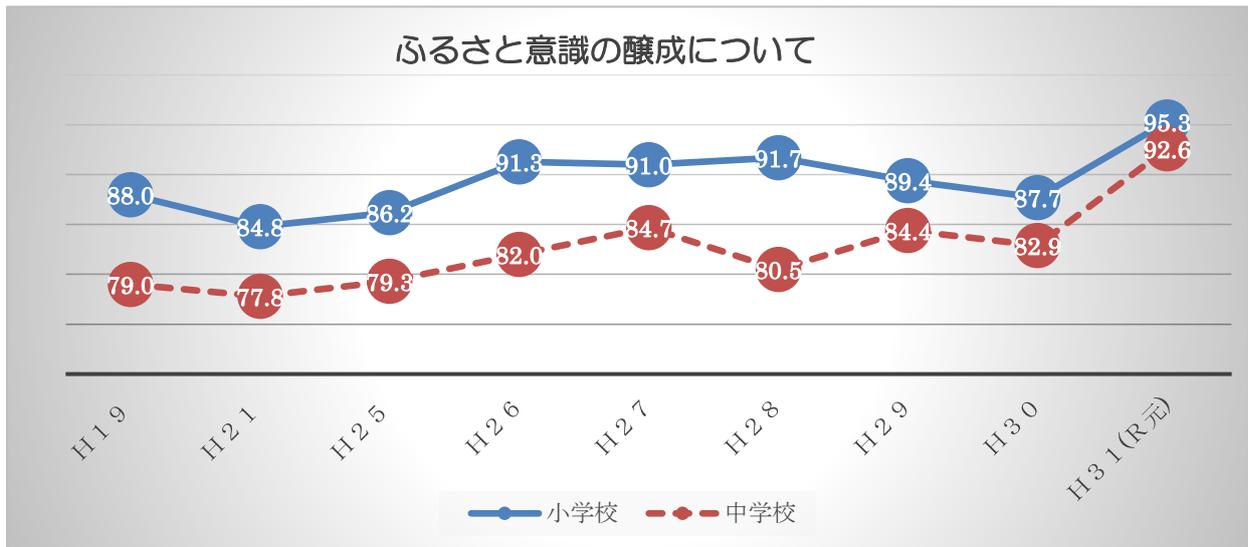
- 今年度、平日における児童の家庭学習の時間は、減少している。一方で、生徒の学習時間は微増している。
- 生徒では、平日の家庭学習時間が「2時間以上」と回答している割合が、はじめて30%台となった。「家庭学習のきまり」などによる啓発を通じて、家庭学習の習慣化の取組が着実に成果を上げていると考えられる。
- 今後とも、キャリア教育推進の取組の一環として、「家庭学習」の重要性を児童生徒に認識させるとともに、校区内の小学校・中学校が連携しあって取り組むことが大切である。

④【自己有用感について】



- 今年度は、香美町の中学校では微増しているが、小学校は微減している。
- 経年比較全体としてみれば、ゆるやかに右肩上がりになっており、保護者や教師が子どものよいところを褒めたり、認めたりするなどして自信をもたせる取組により、一定の成果が現れつつあると考えられる。
- 今後とも、家庭との連携を図るとともに、授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの成功体験を価値付けし、達成感や成就感を持たせる取組を充実していくことが大切である。
- 学力とのクロス集計では、今回は明らかな相関関係は見られなかった。（P32（4）－ウ参照）

⑤【ふるさと意識の醸成について】（「ふるさと教育」推進関連）



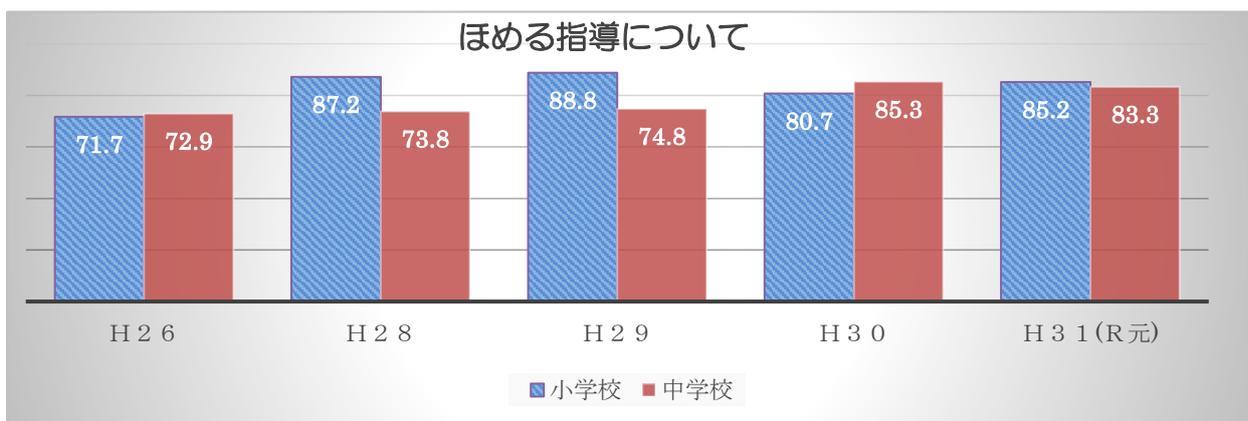
- これまで同様に、児童生徒とも、「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は高いが、児童の方が生徒よりも高く推移している。
- 今年度は、児童生徒とも90%台に乗った。小・中学校とも、「ふるさと教育」の取組成果が浸透しつつあることがうかがえる。
- 学力とのクロス集計では、生徒においては有意な差は見られなかったが、児童においては、平均正答率が高い児童ほどふるさと意識が低く、逆相関の関係が見られた。（P33 (4) -工参照）

（参考）

「今住んでいる地域が好きですか。」（平成19年度調査）の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童（小学校6年生）生徒（中学校3年生）の割合は次のとおりである。

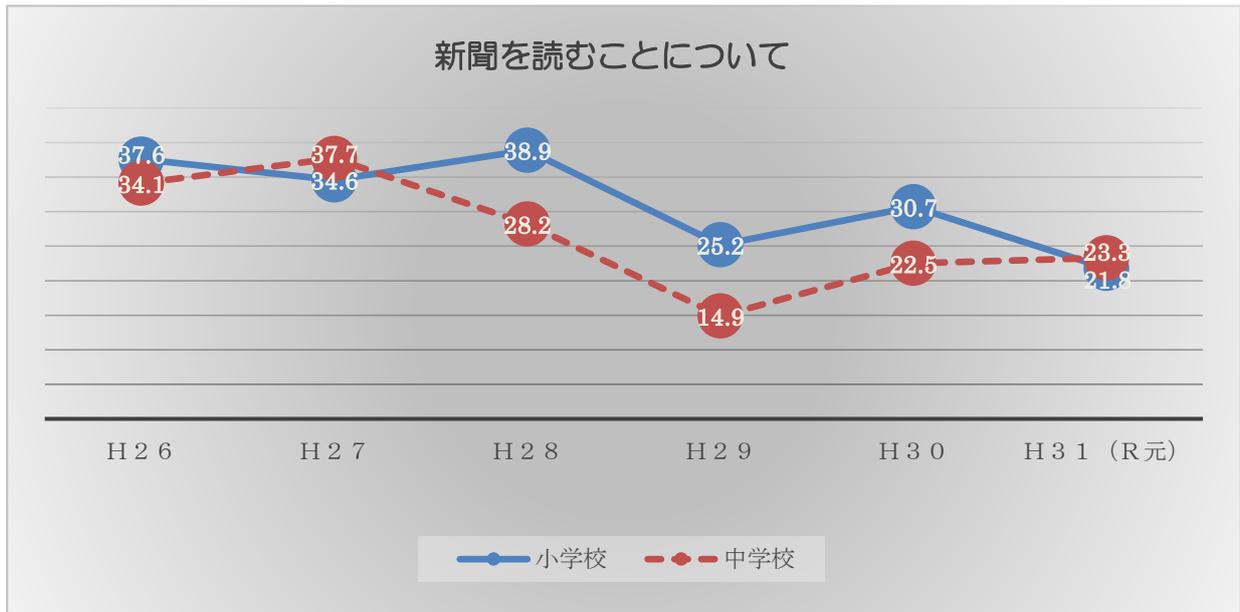
児童	84.8%
生徒	73.1%

⑥【教師が児童生徒のことを認めることについて】（「ほめる指導」「認める指導」関連）



- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と回答している児童生徒の割合は、今年度、生徒はやや減少したが、児童はやや増加した。
- 「香美町教育の重点」に示された「ほめる指導」、「認める指導」の推進が浸透しつつあることがうかがえる。
- 今後とも、脳科学の知見を生かし「ほめること」、「認めること」の大切さを保護者などに啓発していくとともに、その実践充実に努め、児童生徒の内発的学習意欲の向上に繋げる取組が求められる。

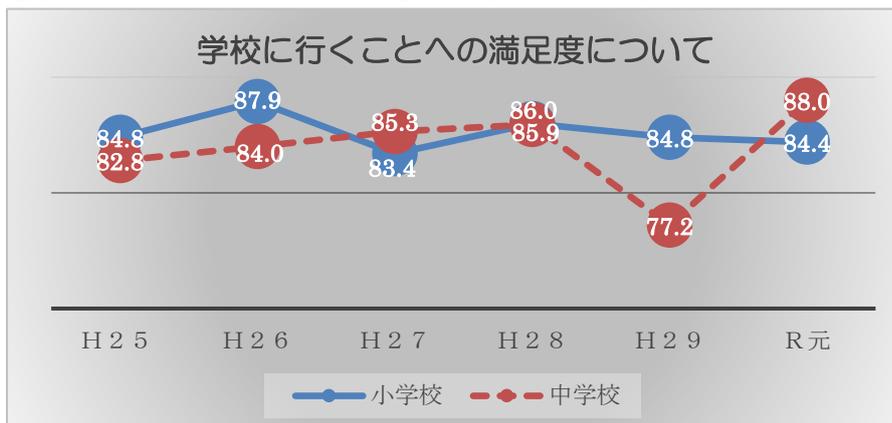
⑦【新聞を読むことについて】（社会に対する興味・関心）



（注）平成25年度は、香美町小・中学校は本質問番号を選択していないためデータなし

- 小学校・中学校とも「毎日読む」、「週に1回～3回読む」を合わせて、平成26年度からの3年間は、いずれも40%に満たない程度であった。平成29年度は、さらに減少傾向にあったが、今年度、生徒は微増したものの、児童は依然として減少傾向にある。平成26年度頃の割合にまでは回復していないが、生徒については、一定の指導の成果が現れていると考えられる。
- 教科の調査結果とのクロス集計では、新聞をよく読んでいる児童ほど国語・算数とも平均正答率が高い傾向にある。
- 問題の意図を読み込む力などを身に付けるためには、日常生活の中で新聞の活字に機会あるごとに触れたり、新聞を日々の授業実践の中で活用したりしていくことが求められる。

⑧【学校に行くことについて】（学校満足度関連）



- 今年度、質問紙の項目が復活した。多くの児童生徒が「学校に行くのが楽しい。」と答えている。また、生徒の「満足度」も復活している。
- 「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と答えている児童生徒が一定割合いる。

（参考）

第2次香美町総合計画における施策指標では…

	平成32年度
小学6年生	93%
中学3年生	89%

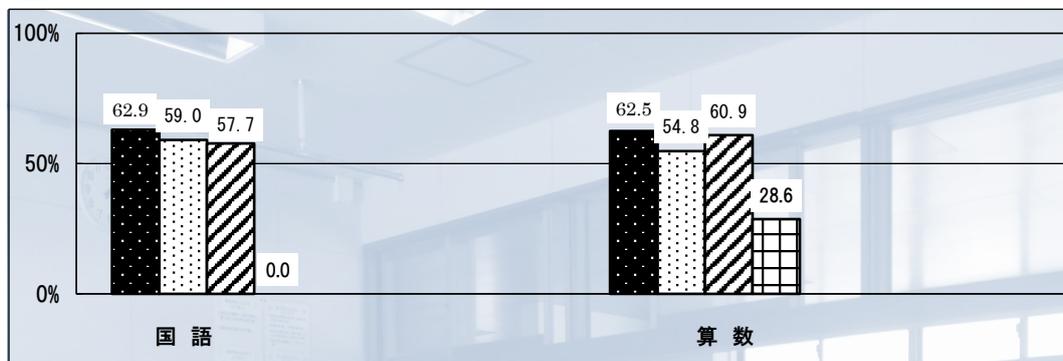
(4) 質問紙と学力のクロス分析の状況から

ア <主体的、対話的で深い学びの視点に立った取組と平均正答率の状況について>

◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

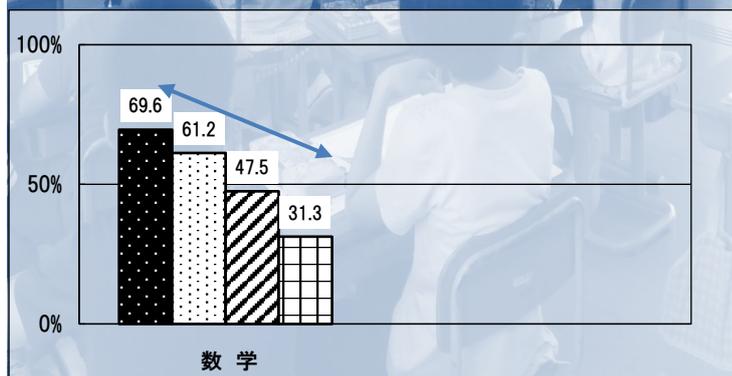
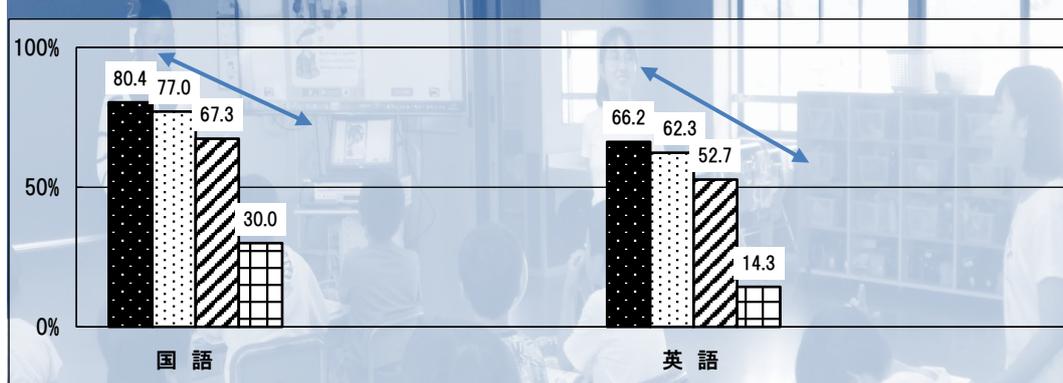
質問番号	質問事項
小(35) 中(37)	5年生までに受けた授業では(1, 2年生のときに受けた授業では), 課題の解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組んでいたと思いますか

《児童》



当てはまらない
どちらかといえば、当てはまらない
どちらかといえば、当てはまる
当てはまる

《生徒》



〔分析及び考察〕

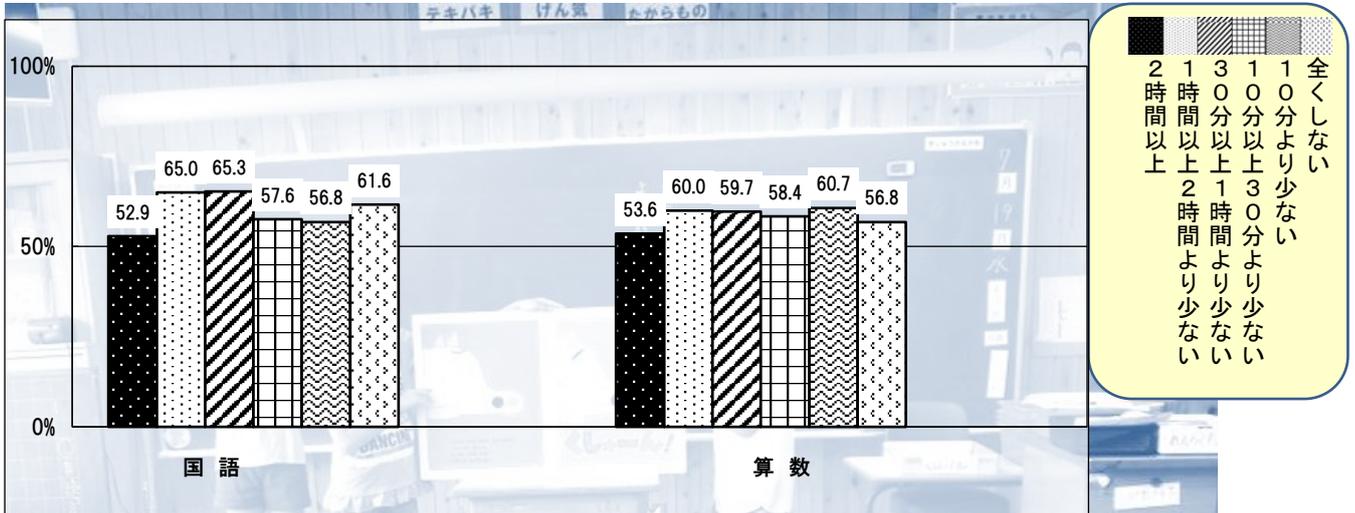
- 生徒は肯定的な回答を選択した方が、どの教科とも平均正答率が高い傾向にあり、相関が認められる。児童については、生徒ほど顕著ではない。今後とも、主体的、対話的で深い学びの視点に立った積極的な取組が求められる。
- 学校質問紙では、肯定的な回答をした学校が12校、否定的な回答をした学校は2校である。

イ <「読書時間」と正答率の状況について>

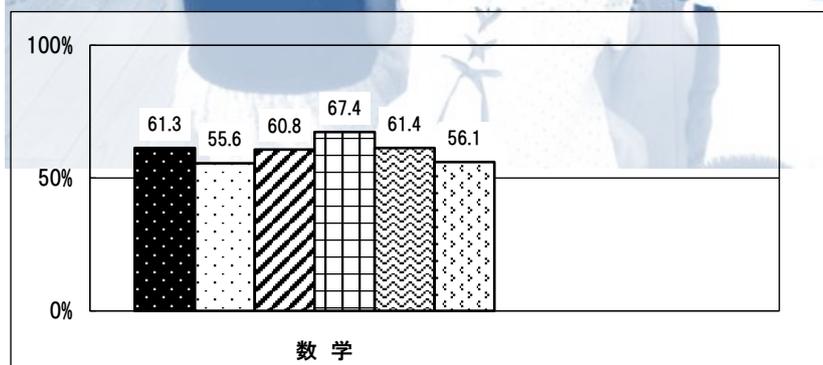
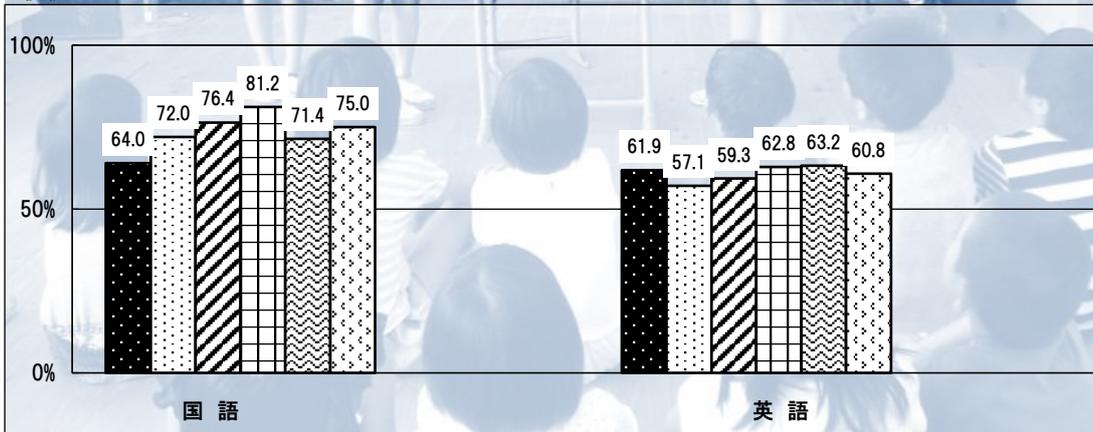
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(19) 中(19)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

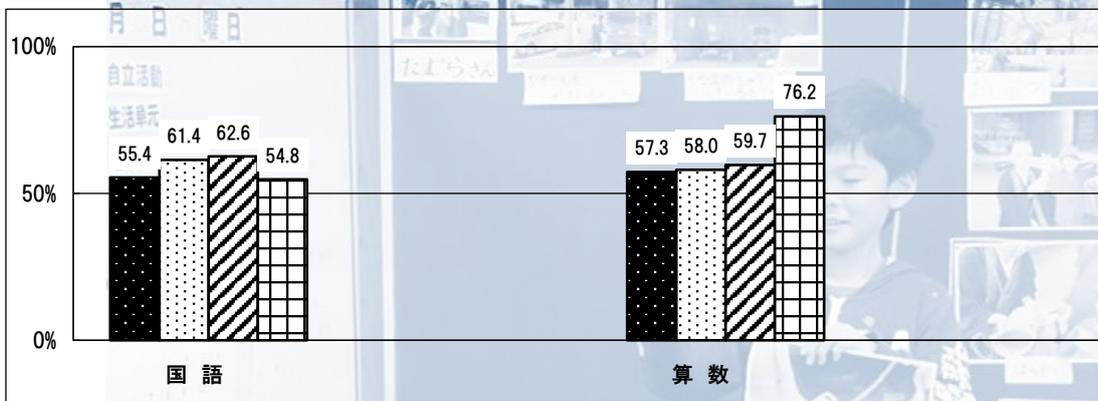
- 児童生徒ともに、読書時間数の多少とそれぞれの教科の平均正答率の相関関係に、大きな有意差は見られない。

ウ <自己有用感と正答率の状況について>

◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

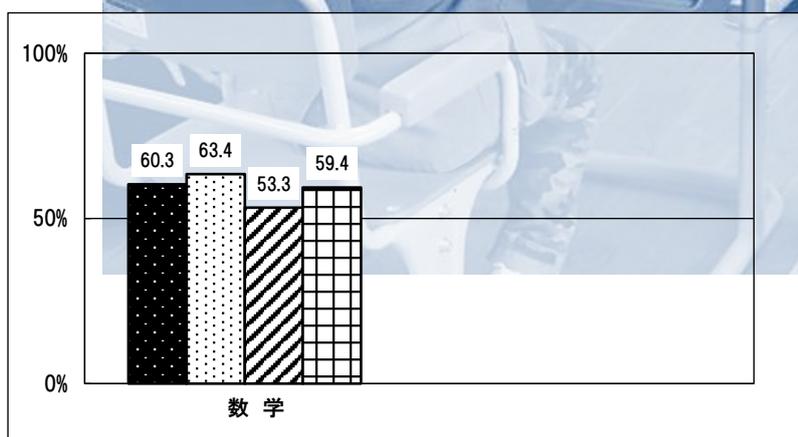
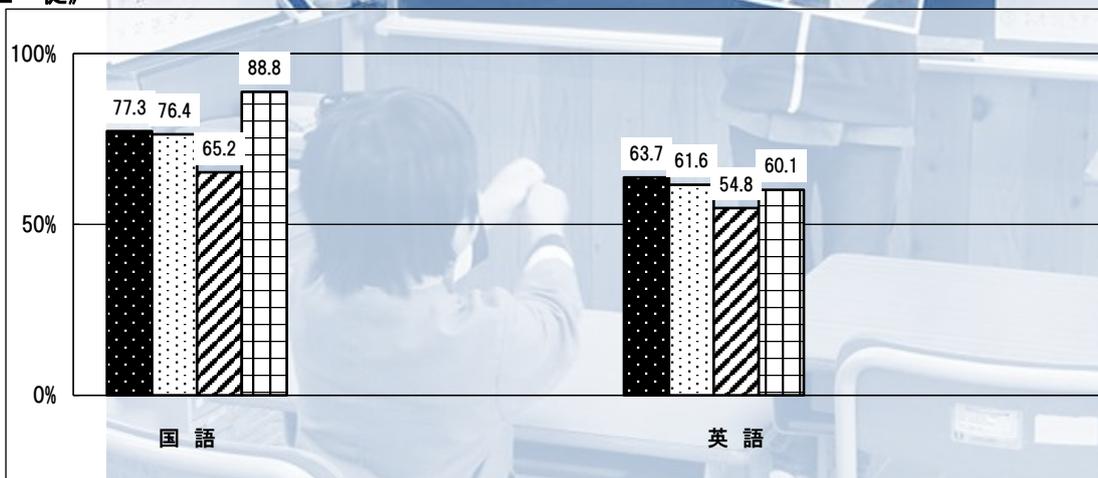
質問番号	質問事項
小(5)、中(5)	自分には、よいところがあると思いますか

《児童》



当てはまらない
どちらかといえば、当てはまらない
どちらかといえば、当てはまる
当てはまる

《生徒》



【分析及び考察】

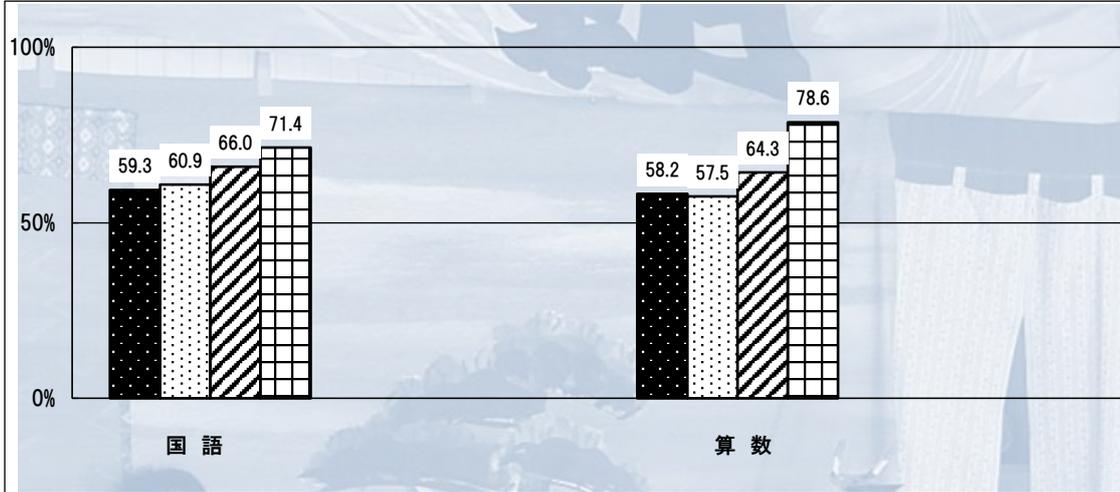
- いずれの教科においても、児童生徒とも自己有用感と平均正答率との間に有意な相関関係は見られない。

エ <ふるさと意識と正答率の状況について>

◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

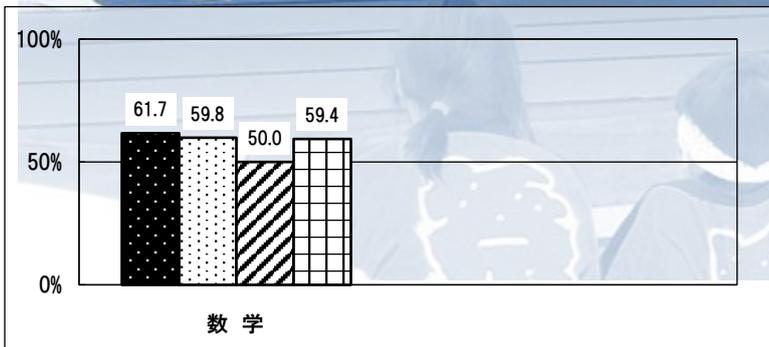
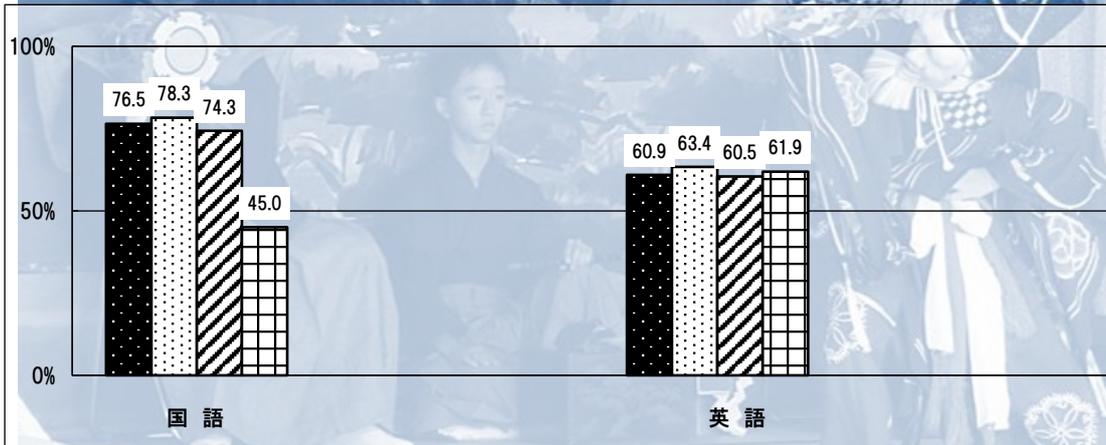
質問番号	質問事項
小(23)中(23)	今住んでいる地域の行事に参加していますか

《児童》



当てはまらない
 どちらかといえば、当てはまらない
 どちらかといえば、当てはまる
 当てはまる

《生徒》



【分析及び考察】

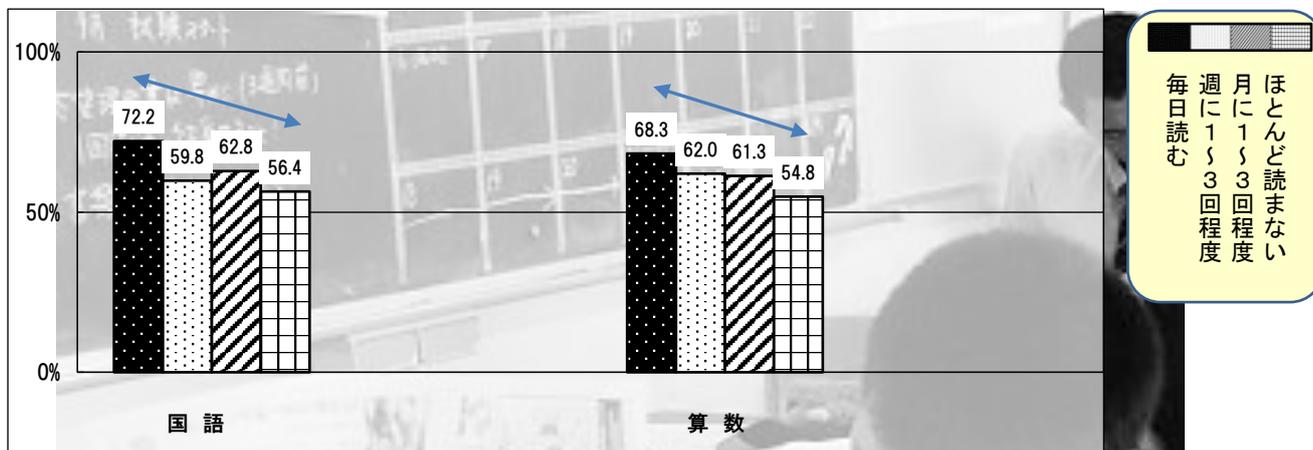
- 児童については、ふるさと意識と教科の平均正答率との間に逆の相関関係が見られる。
- 生徒については、有意な相関関係は見られない。
- ふるさとの身近な自然や地域行事などに関心を持たせ、体験的に学ぶことが、学力の向上にもつながることを意識して取り組ませたい。

オ <「新聞を読むこと」と平均正答率の状況について>

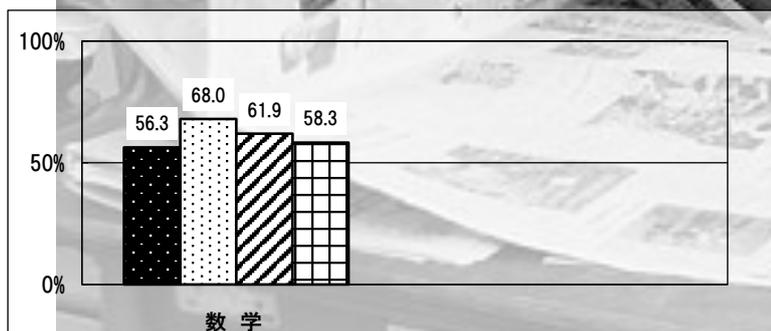
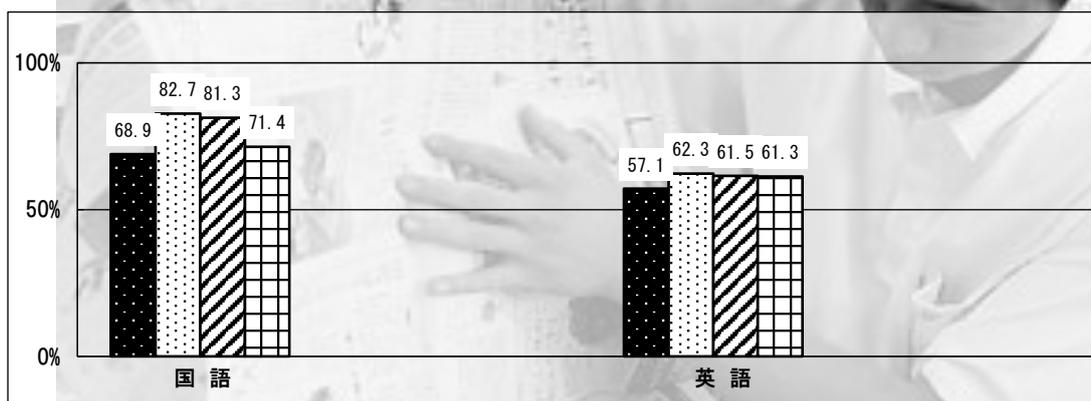
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(22) 中(22)	新聞を読んでいますか

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

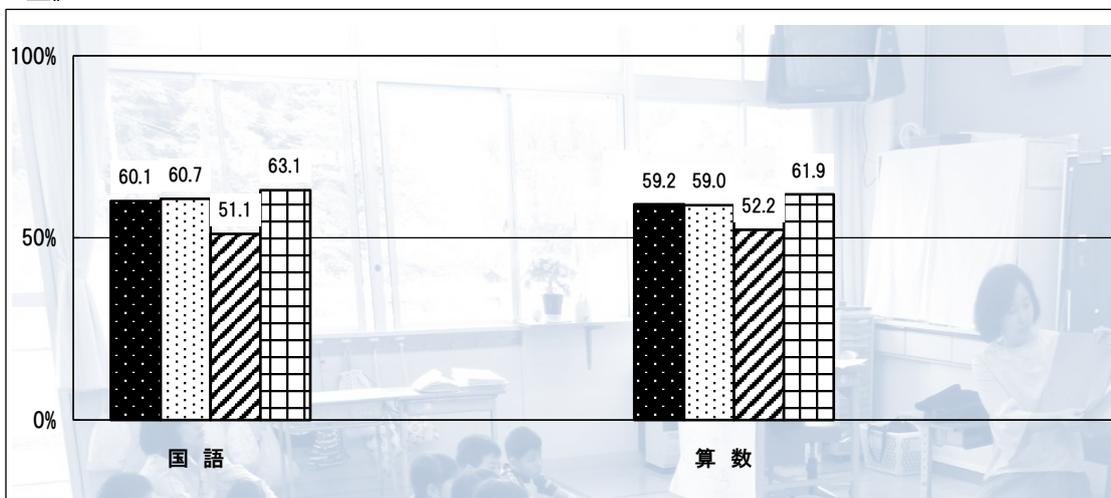
- 児童については、国語、算数とも新聞を読む頻度と平均正答率の間にはゆるやかな相関関係が見られる。
- 生徒については、国語、数学において一部ゆるやかな相関関係が見られる。英語においてはどの区分においても、ほぼ同じ平均正答率である。
- 新聞を読む習慣は、昨年度からやや減少しており、今後とも新聞を読むことを日常生活の一部として取り入れていくことが求められる。

カ <ほめる指導と平均正答率の状況について>

◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

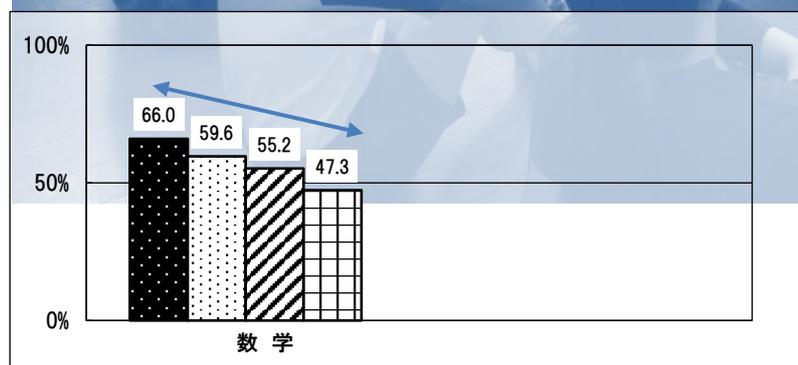
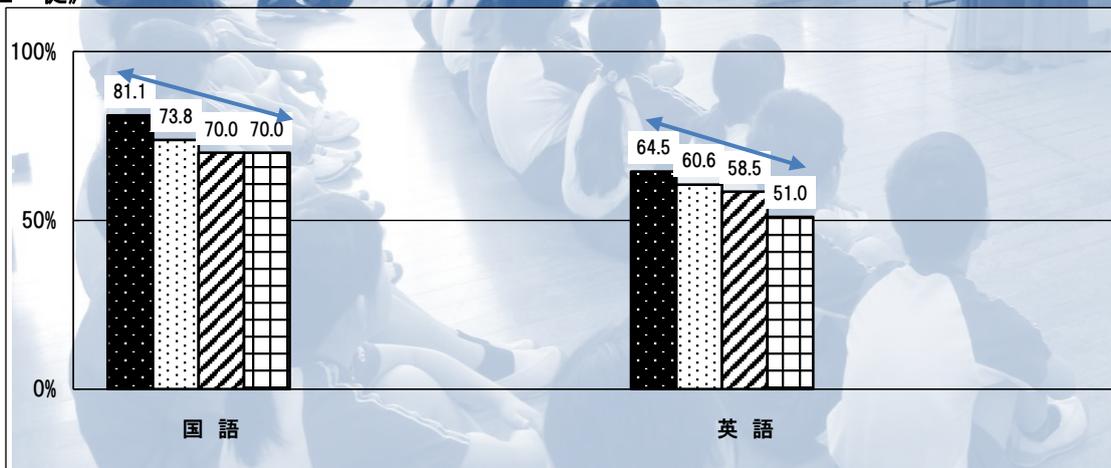
質問番号	質問事項
小(6)、中(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

《児童》



当てはまらない
 どちらかといえば、当てはまらない
 どちらかといえば、当てはまる
 当てはまる

《生徒》



【分析及び考察】

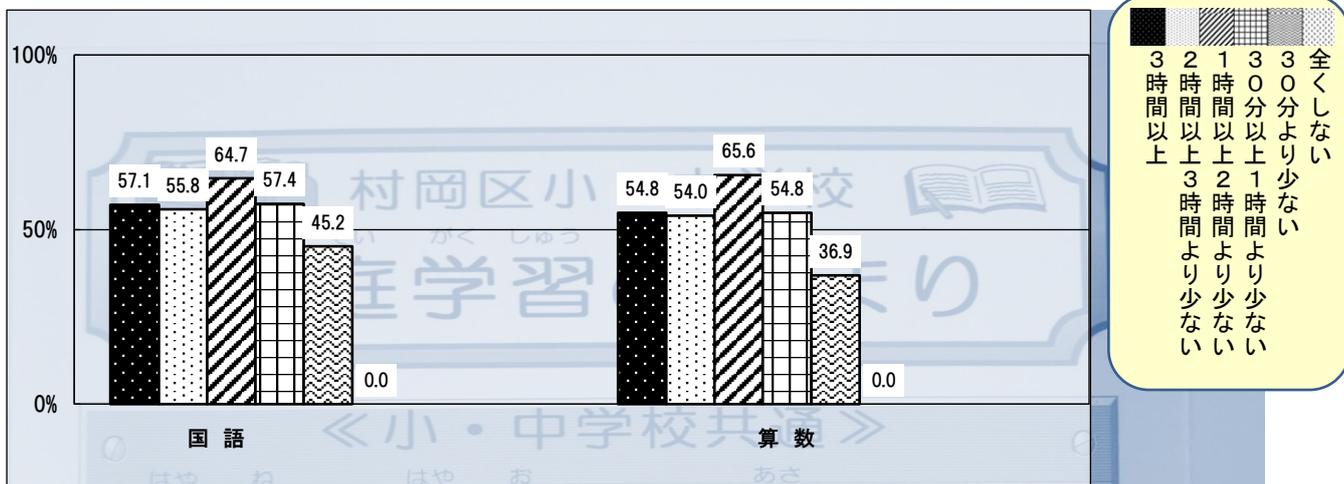
- ほめる指導について肯定的に回答している生徒ほど、いずれの教科の平均正答率とも高い傾向にある。児童については、生徒ほどの相関は見られない。

キ <家庭学習と平均正答率の状況について>

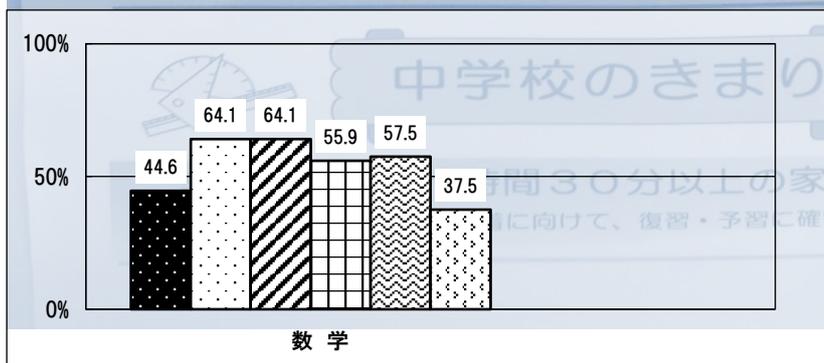
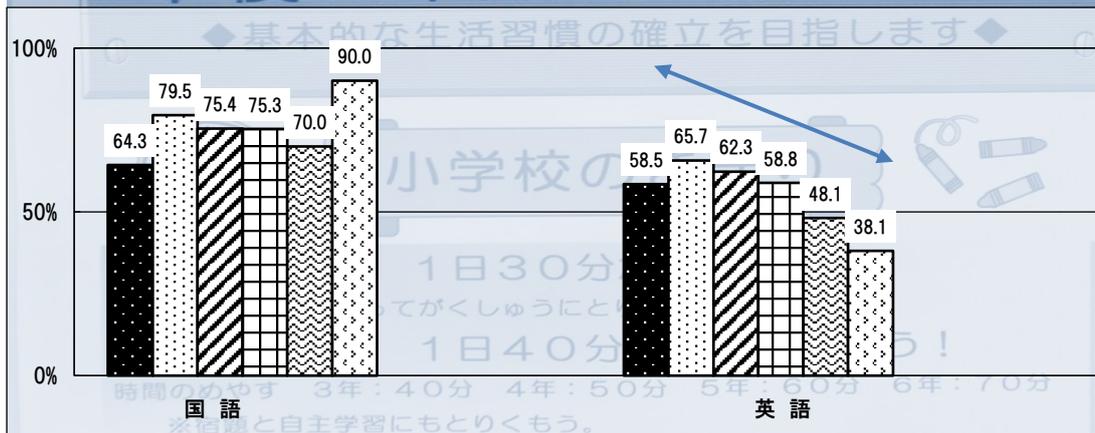
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(18) 中(18)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

- 児童については、「1時間以上、2時間より少ない」が、国語、算数とも最も平均正答率が高い。家庭学習の時間と平均正答率との間には、ゆるやかな相関関係が見られる。
- 生徒については、英語について家庭学習の時間と平均正答率との間に、明らかな相関関係が見られる。

3 今後の取組の方向性について

学校では

魅力ある授業づくりを！

～「学ぶ授業」から「学び合う授業」へ、授業の質的転換を図る～

児童生徒の「学びに向かう力」を高めるためには、安心して共に学び合う学校環境の整備を進めるとともに、指導者は子どもたちの実態や教室での事実に基づき、学力や学習状況の把握に基づき、きめ細かな学習指導に取り組むことが大切です。

<授業実践のポイント>

- 国語科を要として、全ての教科等において発達段階に配慮した言語活動の充実を図る。
- 「めあて・学習課題や学習の流れ」の提示、「振り返り」活動を確実に取り入れる。
- 新学習指導要領改訂のポイントを踏まえるとともに、指導形態や指導方法の工夫改善を図り、授業の展開の中に、「書く活動」、「発表や話し合う活動」などを積極的に取り入れ、授業改善をすすめる。
- ICT機器の活用を図ったり、体験的な活動などを取り入れたりする。
- 「ほめる指導」、「認める指導」を大切にする。
- 個人カルテの活用などにより、一人もつまずきを見逃さない個別指導を推進する。

指導力を高め合う組織づくりと学びの連続性のある取組を！

～小中連携、小中一貫化の取組を通じた交流の質的高まりを図る～

子どもたちの学びの連続性を保障するためには、校種間の枠を越え、義務教育9年間を通して児童生徒に必要な資質・能力を育むことが求められています。そのため、調査結果等を全職員で共有し、カリキュラム・マネジメントの視点に立った取組をすすめるとともに、系統性を意識した組織的な授業改善につなげることが大切です。

<実践のポイント>

- 若手とベテランが学び合う同僚性の構築を組織的にすすめる。
- 中学校区で「目指す子ども像」を共有し、合同研修会などを通して指導方法や指導体制等の工夫改善を図る。
- 9年間を見通したカリキュラムづくりや授業研究や研修会、乗り入れ授業などに取り組むとともに、学習ルールや授業スタイルの共有化などを行う。
- キャリア教育の視点から「家庭学習のきまり」を作成するなど、中学校区で学習への目的意識を持たせる系統的な指導をすすめる。

小規模校ならではの特色を生かした取組を！

～「学校間スーパー連携チャレンジプラン」を更に充実し、取組の質的向上を図る～

小規模校のよさを生かし、きめ細かな指導をすすめるとともに、小規模校の課題を克服し、子どもたちの主体性、望ましい競争心などを育てることが大切です。そのため、「学校間スーパー連携チャレンジプラン」に取り組み、多人数の学習集団や複数教員による複眼的な指導により子どもたちの学力や人間関係力を高めていきます。

<実践のポイント>

- 事前、事後の打合せや研修を充実させるとともに、他校の教員の実践からも学び合うなど、自らの授業改善に生かす。
- これまでの取組成果や課題の可視化を図り、次の取組につながる検証や評価などに取り組む。
- 平成25年度からスタートし、7年目を迎えた本事業の成果を継承するとともに、課題解決のために設置した「チャレンジプラン総合会議」での協議を踏まえ、今後の取組の充実を図る。

家庭・地域では

家庭は子どものよりどころ、すべての教育の出発点 地域の子どもは地域で育てる機運を盛り上げよう！

子どもたちが安心して学びに向かうためには、学校にとって家庭や地域の協力は不可欠です。家庭で読書や家庭学習などに積極的に取り組んだり、家の人と学校の出来事について話をしたりする児童生徒ほど、学力・学習状況調査の正答率は高い傾向にあります。

また、地域には学校での学習につながる教育・学習資源や人材が豊富です。地域に学び、子どもたちのふるさと意識を醸成していくことは、将来の香美町を支えていくためにも大切です。「オープンスクール」、「学校版教育環境会議」など、様々な機会や場を通して、学校と家庭・地域がいっしょになって子どもたちの未来を考え、共に育てていきましょう。

<実践のポイント>

- 規律ある生活（早寝、早起き、朝ごはん等）、家庭内での対話の習慣化
- 家庭学習の習慣化（「ながら勉強ゼロ」など）
- 家庭で読書等に親しむ環境づくり（「親子で読書」、「新聞を読むこと」の習慣化など）
- スマートフォンなど情報通信機器利用に関するルールづくり
- 努力すること、最後までやり抜くことの大切さを伝える。
- 子育て、しつけの中での「ほめる」、「認める」の実践
- 地域行事やボランティア活動などへの参加を通じた「ふるさと意識」や社会貢献意識の醸成
- 「あいさつ運動」の推進や「ふるさとものしり博士」などによる学校支援 等

行政では

学校・家庭・地域への支援を！

教育委員会では、「ふるさとに学び 夢や志を抱き ふるさと香美を大切に作る人づくり」を目指し、「香美町教育振興基本計画」や「香美町教育の重点」に基づき、香美町の教育を推進していきます。そのために、各学校の教育充実を図るとともに、家庭・地域での様々な取組を支援していきます。

- 各種研修会の実施による教員の指導力等向上への支援
- 町ホームページ、町広報誌などによる情報提供
- 各種事業の実施（ふるさと教育交流会、ふるさとおもしろ塾、土曜チャレンジ学習、ふるさと給食試食会など）
- 学校等の施設設備など、教育・学習環境の充実 等

◆ 問題文や各質問紙の詳細は、国立教育政策研究所のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

